

## 第4章

# 特徴的な学校の取組の紹介

児童生徒の学力を大きく伸ばした学校の実践を紹介します。

各学校において、本章で掲載されている児童生徒の学力の伸びを引き出した効果的な取組を、今後の取組の参考としてお役立てください。

今年度は、以下の8校の取組を紹介します。

草加市立稲荷小学校

滑川町立宮前小学校

熊谷市立大幡小学校

八潮市立大曾根小学校

川口市立青木中学校

富士見市立水谷中学校

深谷市立幡羅中学校

越谷市立南中学校





# 草加市立稲荷小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は草加市の北東部に位置し、開校 43 周年を迎えた。児童数 454 名、学級数 15 学級の中規模校である。外国籍の児童で日本語指導の支援を必要とする児童が各学級数名ずつ在籍している。



学校教育目標を『自ら学び 心豊かに たくましく』とし、「花さく 夢さく 笑顔さく 明日への希望 いなりっ子」を合言葉に教職員が一丸となり、「児童一人ひとりを大切にする教育の推進」を学校経営方針として、主体的に学ぶ力、豊かな人間性、たくましい心身の育成を目指している。また、平成 28 年度から 4 年間、草加市教育委員会の委嘱を受け、「幼保小中を一貫した教育」に関わる研究を推進している。「学力の向上と豊かな心の育成を目指して～幼保小中を一貫した教育の取組から～」を研究テーマに掲げ、いなり幼稚園・ひかり幼稚園・松江中学校と連携し、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子」の育成を目指し、研究を進めてきた。

## 2 平成 30・31 年度の結果

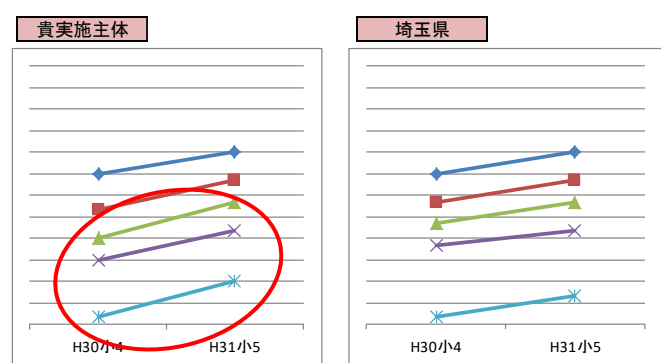
### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化

	小学校 4 年生	小学校 5 年生	小学校 6 年生	中学校 1 年生	中学校 2 年生	中学校 3 年生
高	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
↑	レベル9					
	レベル8					
↓	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
低	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

学力の伸びの状況



- 小4から小5にかけて、学力レベルが6上昇し、県平均の変化を大きく上回っている。
- 中位層・下位層の学力が大きく伸びている。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア ICTを活用した授業の推進

各授業において、積極的にICTを活用した授業を実践した。特に国語・算数では、指導者用デジタル教科書を活用した。分かりやすい授業の実現のために、教科書の図表や教具の使い方等を大きく示すことで教師の指示や各児童の考えを共有化したり、理由や仕組みを視覚的に示すことで理解を深めたりした。これにより、児童の授業への興味・関心を引き出すとともに、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ることができた。



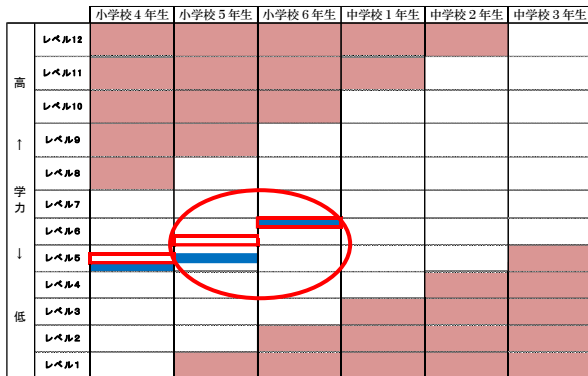
##### イ 自己肯定感の向上を目指した指導の推進

学習内容がわかった、できたという経験を積ませるために、単元テストを大切にした。テスト前には類似問題のプレテストを数回実施し、自信をもってテストに臨ませた。また、様々な問題に慣れ、解けた喜びを味わわせるために、国語（文法問題）と算数（文章問題）について、コバトン問題集や復習シート等から問題を選び両面に印刷したプリントを、週2回家庭学習として取り組ませた。

## 小学校5年生→小学校6年生の取組

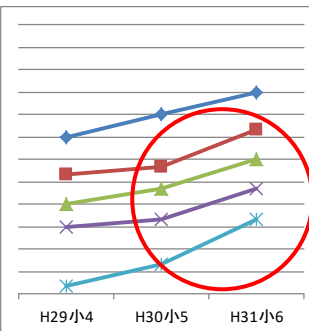
### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化

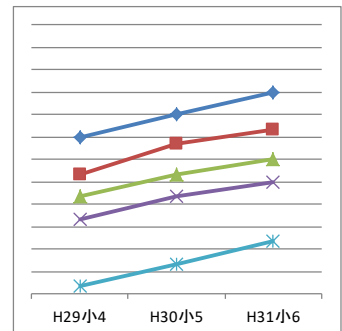


#### 学力の伸びの状況

##### 貴実施主体



##### 埼玉県



- 学力レベルが県レベルまで伸びている。
- 上位層・中位層・下位層とも学力が大きく伸びている。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 見通しを意識した授業展開

授業の流れの中で、特に「一人で自力解決できるよう具体的な見通しをもたせる」ことに重点をおき指導を行った。学習内容によっては、見通しの場面で話し合う場面を設定したり、自力解決を行うために必要な具体的な方法を発表させたりした。多くの児童が自力解決できるようになり、自信をもって学習に取り組むことができるようになった。

#### イ 学び合う学習形態の工夫

適用問題に取り組む時間を中心に、児童同士で教え合う活動を取り入れた。「答えを教えるのではなく、解き方を教えること」を意識させた。学習内容の理解が不十分で学習に取り組めない児童は、友達からヒントをもらうことで少しずつ適用問題を解けるようになり、教えた児童も自分の言葉で説明するために学習内容を振り返り、どう伝えれば理解してもらえるかを考えながら教えたため、相互の学習の理解が深まった。また、児童間の良好な人間関係にもつながった。

## 学校全体での取組

### ア ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、学習環境の推進

- ① どの児童にとっても楽しく「分かる」「できる」授業の実現のため、授業のユニバーサルデザイン化として「焦点化」「視覚化」「共有化」の考えを取り入れた授業展開を全職員が意識して取り組んだ。特に「視覚化」において、ICTを活用したり、図や写真を用いたりして、学習内容や学習教材を言葉だけでなく、視覚的に理解できるようにした。
- ② 学習環境のユニバーサルデザイン化として、授業に集中できる環境を整備した。具体的には、黒板の周りの学校教育目標以外の掲示物を外したり、前面の掲示板にカーテンを取り付けた。また、時計を側面や背面に移動した。この取組によって、児童は、視覚による刺激が低減され、学習に集中できるようになった。



### イ 学習規律の統一

落ち着いて学習に取り組むことができるように、話を最後までしっかりと「聞く」指導の徹底を全校で取り組んだ。また、小中一貫の取組として、授業の開始、終了時のあいさつを小中で統一し、「語先後礼」を意識した挨拶を行うこととした。「聞く」態度が向上したことで、授業に落ち着きが見られ、学習活動が円滑に進み、児童の学習理解が深まった。



# 滑川町立宮前小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、滑川町の中央に位置し、開校146周年を迎える。全校児童数は473人、学級数は18学級の中規模校である。学校教育目標『夢をもち未来を拓く子～よい子・強い子・勉強する子～』の下、家庭・地域・学校が共通の目標をもって教育活動に取り組んでいる。

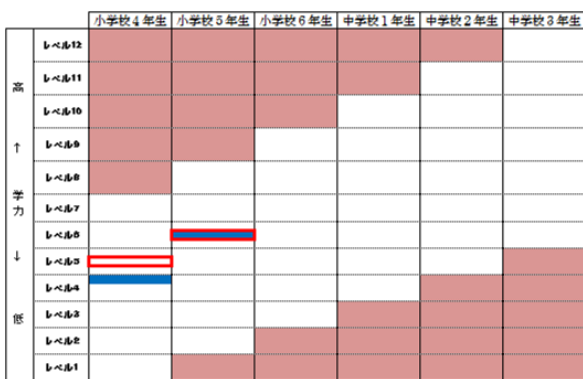
昨年度は、研究テーマを『基礎・基本を身につけ、主体的に学ぶ子供の育成～学力・学習状況調査の分析・活用を通じた授業改善サイクルの確立～』と設定し、国語科・算数科の授業を中心に、各種学力調査の結果分析を通して学年ごとに課題を明確にし、授業改善を図った。「ていねいに・続けて・最後まで」を合言葉に、学習習慣を身に付け、全児童の学力が伸びるよう、全教職員が愛情をもってよりよい授業づくりに努めている。

## 2 平成30・31年度の結果

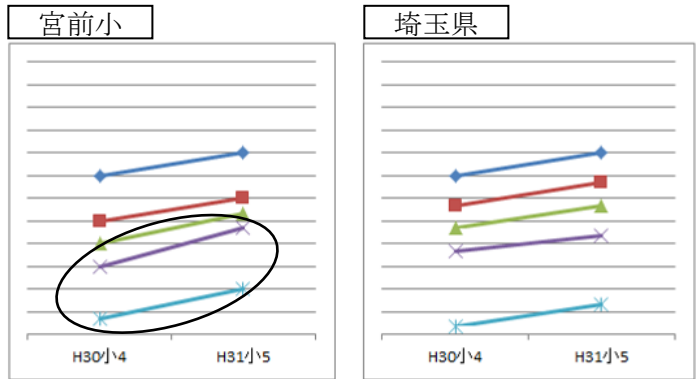
### 小学校4年生→小学校5年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 算数の学力レベルが県平均を下回っていたが、5段階伸ばし、県平均と同程度になった。
- 特に、下位層の「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 個に応じた指導の充実と基礎・基本の徹底

個に応じた指導の充実のため、算数科の授業においてTTを取り入れている。教師の役割を明確化し、T2の個別支援により一人一人の理解を促し自分の考えをもって課題解決に臨めるように支援している。また、単元や児童の実態に応じて担任教師がT2を担当し、解決の手立てを示したり児童の躓きを見取って支援したりすることで、児童の興味・関心や意欲を引き出し、効果的に学習を進めることができた。適用問題やスキル等の取り組みでは、間違えた問題に付箋を貼るなどの手立てにより、全ての問題に丸がつくまで繰り返させ、学習内容を確実に定着させた。児童は、分かることで学習への意欲が高まった。

##### イ ICT機器を活用した授業づくり

実物投影機やタブレットの映像をプロジェクターで投影し、問題や図、具体物の操作、児童の思考などの情報を提示することで、視覚的に学習課題を捉えたり、振り返りを行ったりすることができた。また、板書に係る時間の短縮により、課題解決の時間が確保され、解法についてじっくりと思考したり、考えを共有したりする活動も多く取り入れることができた。自分の考えを伝え合い、教え合う中で、下位層の児童も最後まで諦めずに取り組む姿が見られ、自己有用感の高まりも感じられた。

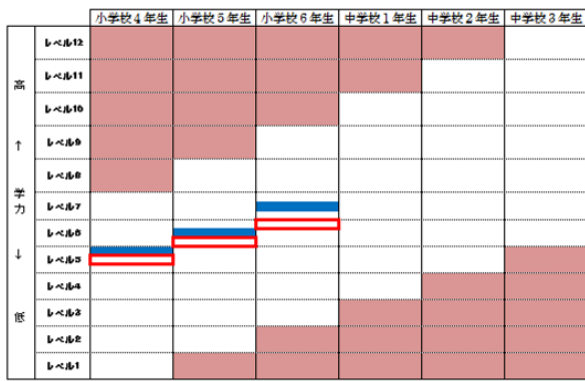


プロジェクターを活用した授業

## 小学校5年生→小学校6年生の取組

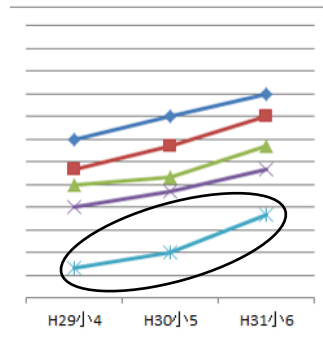
### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化

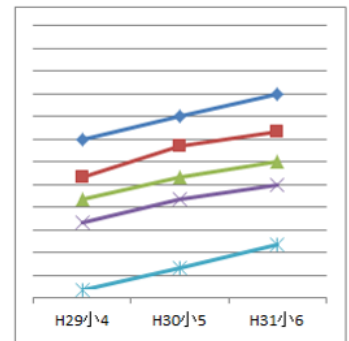


#### 学力の伸びの状況

宮前小



埼玉県



- 学力のレベルは、小4・5では県平均より1段階高いが、今年度は2段階高くなった。
- 最下位層に大幅な伸びが見られた。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 問題解決や探究的な学習を取り入れた学び合う授業の定着

多様な考えを引き出したり、思考を深めたりする課題の提示や発問の工夫を行った。児童が見通しを基に自力解決し、その答えや考えを自分なりに表現する活動や友達に分かりやすく説明する活動を積極的に取り入れた。上位層の児童は、多様な解法や自分の考えを表現し、分かりやすく説明することを通して、自らの思考力・判断力・表現力等を働かせ、理解を確かなものにしていった。下位層の児童も、一人一人が分からないことを質問したり、意見交換したりと、自分なりに表現する活動を繰り返し経験し、協働的に学習する中で、理解を深めて、力を大幅に伸ばした。

#### イ 「学びの振り返り」の習慣化

授業の終末では、児童の言葉でまとめや感想を書かせた。振り返りの時間をもつことにより、児童の思考を整理させ、深い学びへとつなげられるようにしている。「今日の友達のとて、よかったこと」「もっと知りたいと思ったこと」など、書く内容を焦点化し、数学的な見方・考え方を養う工夫をしている。

#### ★学しゅうかんぞうで書くこと★

- 「友だちのほっぴょうでよかったこと。」
  - 「～人のほっぴょうは、わがわがと違ってよかった。～人のほっぴょうに、学べたことがあった。」
  - 「書きたかったこと。」
  - 「誰かが書いてみてほしいと思ったこと。」
  - 「かんたんなやりかたはいいけれど、かんたん考え。」
  - 「よかったこと、わからなかったこと。」
  - 「かけ算のひき算は、わがわがと違ってよかった。」
  - 「配列と、はさみで切り抜くのは、わがわがと違ってよかった。」
  - 「いろいろなひき算のやりかたがあった。」
  - 「僕もにらまされたこと。」
  - 「得意な解法があるから、互いに勉強の助けになるかな？」
  - 「つかってみたいこと。」
  - 「人間関係と、まねてみることをつかってみたい。」
  - 「早くに終わったこと。」
  - 「思っていたより、時間がかかったこと。」
  - 「思ったより、早く終わったこと。」
  - 「僕にできそうなこと、僕がしたいこと。」
  - 「明日の授業で、どんな問題が出るかな？」
  - 「さいごは、自分の意見を書いている。」
  - 「今日の学びのキーワード。」
  - 「今日のキーワードは、わがわが」「くりとせ」「まねてみる」「わがわが」「ほっぴょう」など
  - 「もっと学しゅうしたいこと。」
- 大きい紙のけんをのりして、絵柄もつけて書いてみる。

#### 振り返りの観点(教室掲示)

### 学校全体での取組

ア 学習意欲を高め授業規律を確立するため、全教育活動を通じて、励ましや称賛など自己有用感を高めるための言葉がけと、「傾聴」の指導に力を注いでいる。

イ 教室前面の掲示物の精選や掲示板へのカーテン設置等、ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備に取り組んだ。また、学習過程を示すマグネットシート(「課題」「見通し」「まとめ」等)を学校全体で統一している。

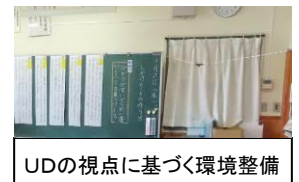
ウ 毎日の宿題の他に、「ターナちゃんノート」(自主学習ノート)への取組を通して、児童の家庭学習の習慣化を図った。学年ごとの取組時間の目安を設定し、内容について助言したり、よい取組を紹介したりして意欲を高めている。

エ 全教職員が全国学力・学習状況調査の問題を実際に解くことや、県学力・学習状況調査の分析に取り組み、今求められている学力と児童の課題の把握に努めた。今年度は、分析結果から、「正確に読み取り、判断し、自分の考えを書くことができる児童の育成」に取り組んでいる。

オ 授業を録画して自己評価をしたり、時間を活用し互いに授業を見て学び合ったりと、指導力向上に努めている。また、OJTを通じて、ベテランや中堅層教員の専門性を生かした指導技術の伝達を積み重ねながら、見届けを大切にされた若手教職員の育成に取り組んでいる。



教師の話に「傾聴」する児童



UDの視点に基づく環境整備



# 熊谷市立大幡小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、国宝「歓喜院聖天堂」をはじめ、関東一の祇園と称される「うちわ祭り」や2019ラグビーワールドカップ開催都市として知られる熊谷市の中央部に位置し、明治6年の開校から今年で147年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。全校児童数は539名、学級数21学級の中規模校である。

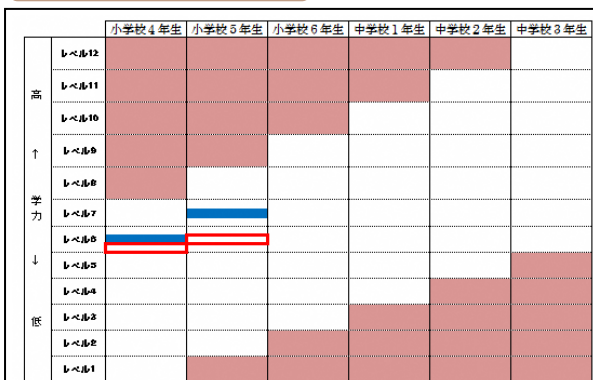
学校教育目標『大きな心 はたらく頭 たくましい体』のもと、大幡小の「財」、宝である子供たちを育て、その力を最大限に発揮させるために教職員一丸となって取り組んでいる。昨年度から、研究課題を『確かな学力を身につけ、主体的に表現する児童の育成 ～学校図書館の利活用を通して育む資質・能力～』と設定し、「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」（熊谷市教育振興基本計画）のもと、児童一人一人の学力向上を目指すとともに、教科の垣根を超えた総合的な学力を身に付け、学校で学んだことを実生活の中で活用できる力の育成を図りながら「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを進めている。

## 2 平成30・31年度の結果

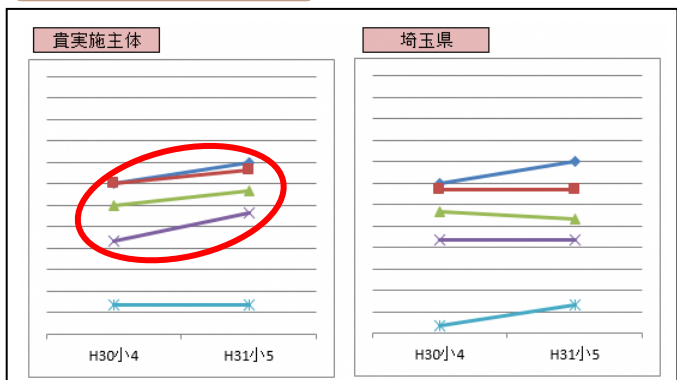
### 小学校4年生→小学校5年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 国語の学力レベルが3ポイント上昇し、県平均を上回っている。
- 特に中間層～上位層の学力が伸びている。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善（対話的な学び）

###### ① 学習内容の明確化

本時で教える学習内容を明確にするとともにわかりやすい板書・ふり返りのできるノート指導を行うことで、思考のあとの見える化を行った。

###### ② 伝え合い活動の充実

「フレンドタイム」（グループ）・「トーキングタイム」（全体）を効果的に活用するとともに、①根拠をもって考えを書く活動②根拠を明確にして考えを伝え合う活動③考えをさらに深める活動に重点をおき、思考力・判断力・表現力を高めた。



6年国語「パネルディスカッションをしよう」フレンドタイムの様子

##### イ 日常生活における言語活動の充実（対話的な学び）

###### ① 階段慣用句の設置【日常生活におけるラウンドシステム化】

様々な言葉に触れる機会を設け、日常生活の中で親しませながら活用することで、語彙力の向上を図るとともに、自分の考えや思いを正確に伝えることができる素地作りを行った。



階段慣用句の設置

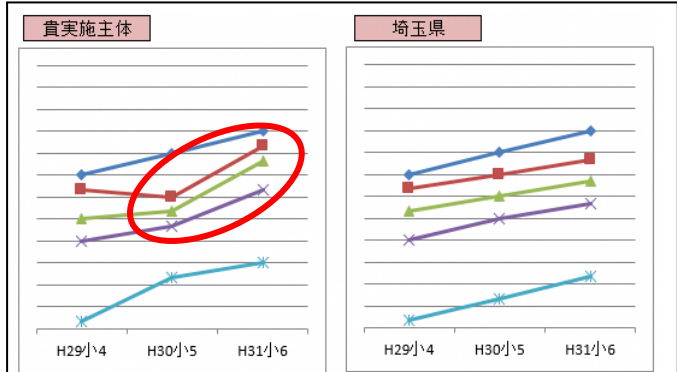
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高 ↑ 学力 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

#### 学力の伸びの状況



- 国語の学力レベルが昨年度に比べ7ポイント上昇し、県平均を大きく上回っている。
- 特に、中間層の学力の伸びが顕著である。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 学校図書館で総合的な力を育てる（主体的な学び）

##### ① 3つの機能を有した学校図書館の整備 【教科の垣根を越えた学習の場づくり】

◎学校図書館の3つの機能 <読書センター> <学習センター> <情報センター>

第一段階：学習活動における学校図書館の利活用を図ることで、教科横断的かつ体系的に情報活用能力を育成  
 第二段階：情報活用能力を探究的な学習の中で活用し、汎用的な資質・能力の育成と活用方法の習得を行う  
 第三段階：探究的な学習を教科横断的かつ体系的に実践し、実生活の中で生かせる総合的な活用力の定着を図る

#### イ 自己肯定感の醸成（学びに向かう力、人間性等）

##### ① 『心ウキウキ ボイスシャワー大作戦』の実施

自治的風土（認め合い・高め合い）を形成することで、授業の中での承認欲求を満たし、先生はしっかり見てくれているという信頼関係を構築することで、児童の考えが表出しやすい環境を整え、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりの基礎とした。

##### ② 『トリプルチェンジ・ローテーション 道徳ローテーション』の実施

学年の教員同士の協力体制を強化し、学年全体で個の良さや課題等を把握するため、毎週木曜日にローテーションで学年内の担任が他クラスの指導者となり、朝の学習（はたろータイム）・朝の会・給食指導をしている。また、より深い教材研究及び負担軽減の観点から、道徳の授業も学年内で各担任が受け持つ題材を決めてローテーションし、評価の共有を図ることができた。

## 学校全体での取組

#### ア 読書活動の推進・詩や良文の暗唱・百人一首の暗唱（主体的な学び）

本と触れ合う機会を増やし、良文との出会いを創出するため、読書カード・暗唱に取り組んでいる。読書（30冊）、詩や良文（5首暗唱）、百人一首（10首暗唱）するたびに、校長が直接賞状を授与し、表彰の様子を写真で掲示することで意欲の向上を図り、主体的に取り組む児童の育成に努めた。

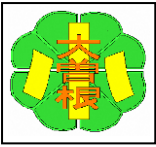


#### イ 教科横断的な学習過程の編成（深い学び）

熊谷市全体で取り組んでいる「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」を活用し、各教科の特性や単元構成を見直し、教科横断的な教育課程を編成し、学習内容を明確にした授業改善を行った。

#### ウ はたろー教室（補充学習）の取組（深い学び）

埼玉県学力・学習状況調査の結果より、正答率25%以下の児童を中心に補充学習を実施し、担任、教務、全学年からの協力を得て、児童の実態に即したきめ細かい指導を徹底して行った。



# 八潮市立大曽根小学校の取組

## 1 本校の概要

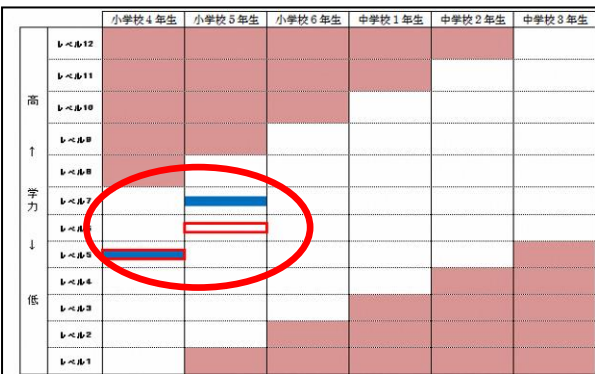
本校は、八潮市の南西部に位置し、開校 51 年目を迎える。児童数は 576 人・学級数は 20 学級である。また、本市では、市内全小中学校で小中一貫教育を推進し、小中学校の「学び」をつなぎ、義務教育 9 年間にわたる連続性・系統性を大切に学習指導等の充実を図り、「学力・体力の向上」と「豊かな心の育成」を目指している。こうした中、本校では、算数科を中心に学校課題研修に取り組んでおり、主体的に学び、分かる喜びを実感できる授業の工夫・改善を行っている。

## 2 平成 30・31 年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果と取組

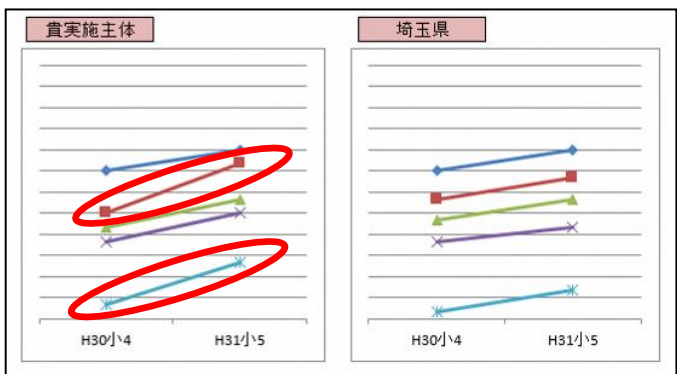
### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 小 4 から小 5 にかけて、学力レベルが 6 上昇し、県平均の伸びを大きく上回った。
- 上位層と下位層の「学力の伸び」が県平均を大きく上回った。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

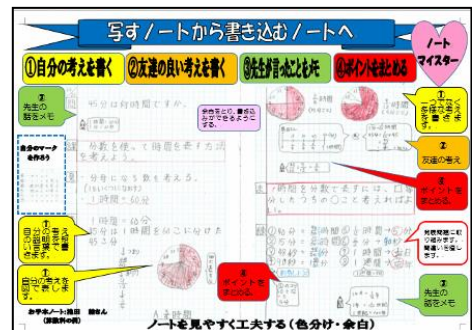
##### ア コバトン問題集・学力向上ワークシートの実施

県が作成したコバトン問題集と東部教育事務所作成の学力向上ワークシートを活用し、様々な問題に触れさせたり、児童一人一人の課題（学力段階）に合った習熟を行ったりした。

対象	学力を伸ばした児童の割合 (%)	
	H30 → R1	
	国語	算数
5年 県	51.2%	79.3%
本校	69.0%	91.7%
比較	+17.8%	+12.4%

##### イ 「書き込むノート」の実践

書く力の向上のため、全教科を通して児童自らがノートにコメントを入れたり、要点をまとめたりする「書き込むノート」作りを行った。書き写すだけでなく、考えながら書くことを指導した。また、返却されたテストやプリント学習などでも自主的に書き込めるよう指導した。



##### ウ 「こまつな」による振り返り

八潮市の特産農作物の「こ・ま・つ・な」を頭文字にした学習の振り返りを行った。児童は振り返ることで学んだことを再認識し、教師は学習の定着状況を把握し、次時の学習に活かした。

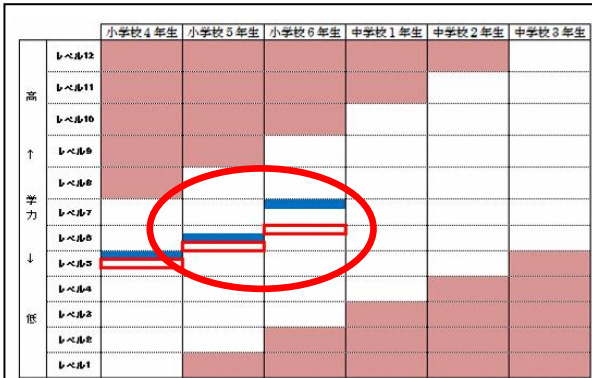
ふり返りの視点	
こ	このように考えた
ま	まねきたいな友達の考え
つ	次は何に役立てようかな
な	何ができるようになったか



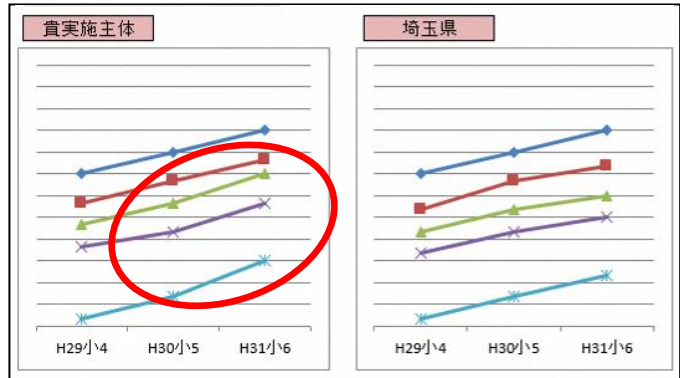
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 小5から小6にかけて学力レベルが4上昇し、県平均の変化を大きく上回った。
- 上位層・中位層・下位層ともに「学力の伸び」が県平均を大きく上回った。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

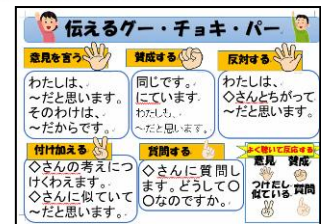
**ア 授業時間における児童が「考える」時間と習熟の時間の確保**  
45分間の中に自力解決の時間、比較検討の時間、問題演習の時間を確実に確保し、常に児童が「考える」授業を展開した。また、習熟の時間も確保した。

**イ コバトン問題集・学力向上ワークシートの実施**  
県が作成したコバトン問題集と東部教育事務所作成の学力向上ワークシートを活用し、学習の習熟を行った。

**ウ 「伝えるゲーチョコキパー」の実践**

ハンドサインによる挙手で、自分の考えを表現する「伝えるゲーチョコキパー」を創設し、話し合い活動や練り上げの場面で活用した。「話す」だけではなく、「聞く」「反応する」ことも重要視しながら指導を行った。児童が自分の考えを表現し、活発な意見交換や比較検討から、子供たち同士で主体的に授業が進められた。

対象	学力を伸ばした児童の割合 (%)	
	H30 → R1	
	国語	算数
6年 県	73.5%	70.8%
本校	89.7%	82.8%
比較	+16.2%	+12.0%



### 学校全体での取組

**ア 「大曽根スタンダード」による授業実践**

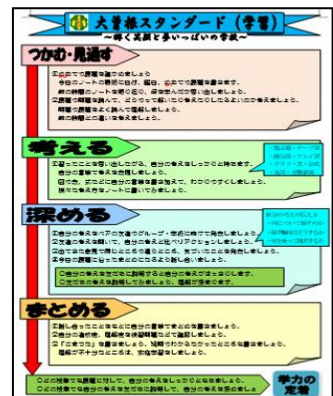
教師が話す時間を極力減らし、児童が主体となる基本的な学習過程を示した「大曽根スタンダード」を作成した。学習過程を「つかむ・見通す・考える・話し合う・まとめる」段階とした「大曽根スタンダード」を、全学級・全学年で行った。

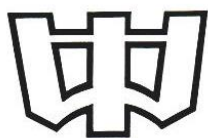
**イ 学習の十カ条の徹底**

小学校2校、中学校1校からなる中学校区域ブロックで取り組んでいる、「学習の十カ条」を意識して授業を行い、学び方を定着させた。毎月振り返りを行い、花丸や達成した数値を掲示し児童にフィードバックした。

**ウ 「レベルアップタイム」の充実**

朝の15分間・週3回を「レベルアップタイム」とし、児童の基礎基本となる学力及び思考の道具の定着のため、全学級プリント学習（国・算）を行った。教師は、残り5分間に拡大掲示した問題の解説等を行い、学力等の定着を図った。





# 川口市立青木中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、川口市中心部の市街地に位置する開校73年を迎えた伝統校である。全校生徒数736名、学級数22学級の中規模校である。

学校教育目標「智性を磨く・身体を磨く・心を磨く」のもと、明るいあいさつ、思いやりの心、規律ある態度の徹底を目指す「ハートフル青中」の取組を推進している。その結果、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。

また「文武両道」を掲げ、学業と部活動どちらもしっかりと取り組んでいる。学業では、「見通しと振り返りのある授業」「道徳の時間を中心とした徳力向上の推進」に取り組んでいる。部活動では、運動部・文化部ともに盛んで、県大会出場の部が多く、関東・全国レベルの活動をしている部活動もある。

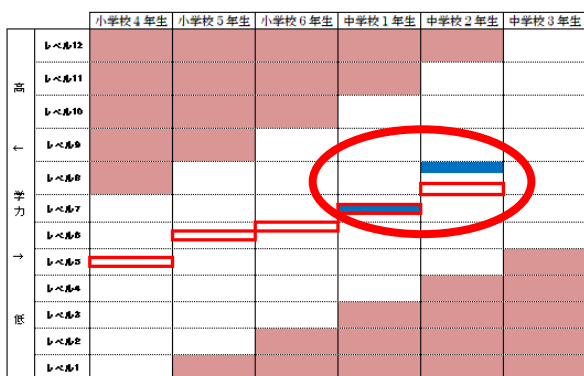


## 2 平成30・31年度の結果

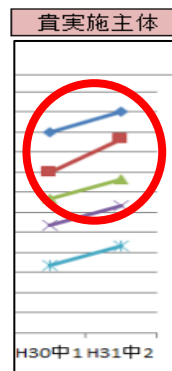
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びからみられる特徴【数学】

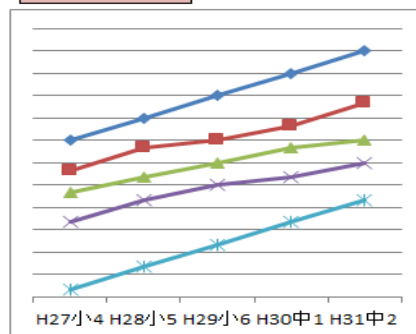
##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



##### 埼玉県



- 数学の伸びが県の伸びを2段階上回った。
- 全体的にも順調に伸びているが、特に中位層、上位層の伸びが大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア 見通しと振り返り

1 単位時間の充実を図った。毎時間の授業では、授業の見通しが持てるように、課題を提示し、この時間で何を学ぶのかを明確にした。また、まとめでは授業の振り返りを行い、生徒の1時間で学んだ学習内容の理解が深まるように授業を組み立てた。

##### イ 「学び合い、教え合う」授業展開

対話的な学びの実現を意識して、授業の中で教え合う時間を設けるようにした。具体的には、課題に対して、個人で考える時間を設けてから、4人のグループ学習を実施した。また、その際の机間指導では、話し合いが活発になるように教師から積極的に声掛け、助言を行った。

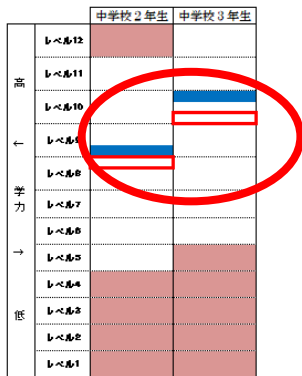
##### ウ 単元ごとに確認プリントの実施

単元ごとに復習の時間をつくり、確認プリントを実施した。生徒のつまづきを早急に把握し、重点的に、また個別に対応した指導をすることで学習内容の定着を図った。

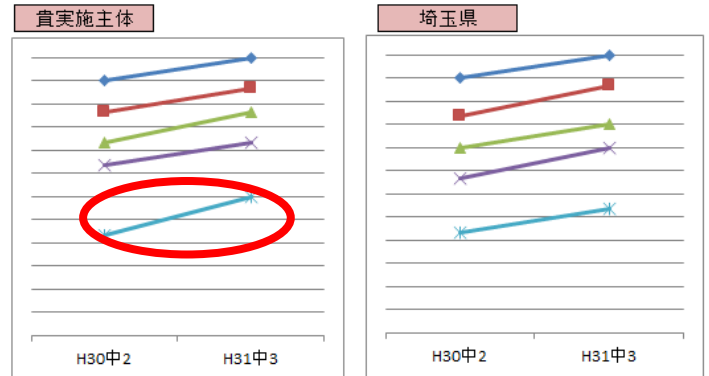
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びからみられる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- もともと中位層の学力レベルが高いが、そこからも順調に学力を伸ばしている。
- 今回は特に下位層の学力の伸びが大きく、県の伸びを上回った。

### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア 生徒の自信を引き出す授業づくり

『「学びの場」は間違えても良い』を合言葉に授業を展開し、生徒の自信を引き出したり、学習意欲を高めたりすることを全教職員で心がけた。授業で生徒が発言した際には、どのような内容の発言にもクラス全員で耳を傾けて、自分の考えを表現できるようにしている。発表時には賞賛や、拍手を教師から率先して行い、生徒の模範となるようにした。学び合う環境の醸成を目指して、授業中自分一人だけで考えずに、クラスの中で意見交換する場面を意図的につくり、新たな学びや発見を共有し、褒め合ったり認め合ったりすることで、生徒が自信をもてる授業づくりを行った。

#### イ 帯活動と既習事項の確認

授業の初めなどに帯活動を取り入れた。ルーティン化した学習を繰り返す行くとともに、活動内容を単元の復習等を取り入れ、自信を持って言語活動できるようにした。

#### ウ 基礎的・基本的な知識・技能の定着

単元ごとに小テストや、積み上げを用いた確認テストを実施した。生徒の定着度を随時測り、学習内容の定着が不十分な生徒でも習熟が図れるように、声掛けをしながら繰り返し練習をさせた。帯活動と並行して行うことで、更に確かな文法力の向上を目指した。

## 学校全体での取組

#### ア 学習習慣の確立と学習環境の整備

家庭での学習習慣の確立のための支援として、学級担任と各教科担当で手立てを考え、二者面談や三者面談を通じて、あきらめずに最後まで取り組むように指導している。また、学習規律の確立に力を入れるとともに校内掲示等を整え、生徒が学習しやすい環境を整備している。あわせて、本校では道徳教育に力を入れることで学級経営の基礎とし、生徒同士の人間関係をよくしていくことで、より良い学習環境づくりを推進している。

#### イ 評価の工夫

生徒のよい点や進捗状況の評価を積極的に指導に生かすことにより、一人一人の生徒を伸ばす評価の手立てや工夫の検討を行っている。具体的には、年間指導計画に基づいた評価規準の作成・授業における自己評価・相互評価の導入・定期テストの工夫と実施といった手立てから、生徒の「学びたい」「知りたい」「活かしたい」といった気持ちを醸成し学力の向上につなげるようにしている。

#### ウ 見通しと振り返りのある授業

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれを活用する場を設定するとともに、学習形態の工夫をしている。特に1時間ごとの授業展開の工夫として、具体的な「見通し」と「振り返り」のある授業を行い、その中で相互に学び合う授業づくりや、小グループの活動・話し合い活動の充実などを効果的に取り入れることで生徒たちの主体的な学びを支援している。



# 富士見市立水谷中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、富士見市の南部に位置し、本年度は開校37年を迎える学校である。全校生徒は282人、学級数は10学級の小規模校である。

学校教育目標「自ら学ぶ生徒 心豊かな生徒 健康で明るい生徒」のもと、保護者・地域・学校が一体となり、教育活動に取り組んでいる。

本校の特徴として地域との連携が密であることが挙げられる。地域の防災訓練や非常災害対応訓練において多くの生徒が参加し、地域の一員としての重要な役割を果たしている。また、体育祭や合唱祭、ロードレース大会等の学校行事の際には、保護者や地域の方々に多くのご支援をいただき、充実した教育活動を実践することができている。

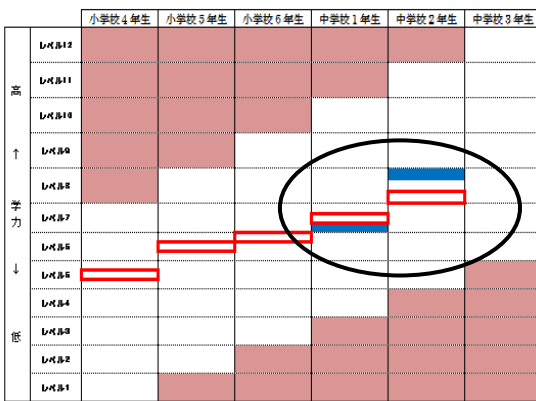


## 2 平成30・31年度の結果

### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化

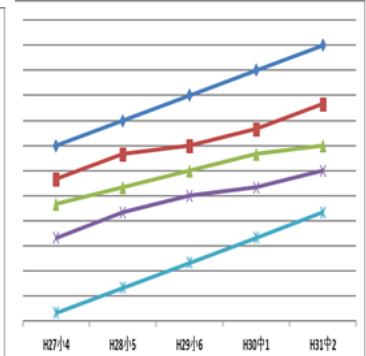


##### 学力の伸びの状況

##### 貴実施主体



##### 埼玉県



- 数学の学力レベルが中1時には県平均を下回っていたが、中2時では県平均を上回った。
- 上位層・中位層・下位層の学力の伸びが大きい。

#### (2) 伸びを引きだした効果的な取組

##### ア 1時間の授業全体を構造的、視覚的に表した板書づくり

授業毎のねらいを明確にするために、学習過程と授業の流れが分かる1時間の板書計画をつくりあげることに取り組んだ。「課題」を意識した「見通し」や「まとめ」を書いたり、重要語句や生徒の意見等を簡潔にまとめたり、黒板の板書配分を工夫することで、学習内容を構造的に捉えられるようになった。また、課題の解決に向けた生徒の考えを色チョーク等で整理することにより、生徒の考えを視覚的にも分かりやすくし、思考の深まりを捉えられるようになった。また、教材・教具を用意し、生徒が操作する場面を取り入れることで、生徒は意欲的に課題に取り組むことができた。



視覚化・構造化された板書

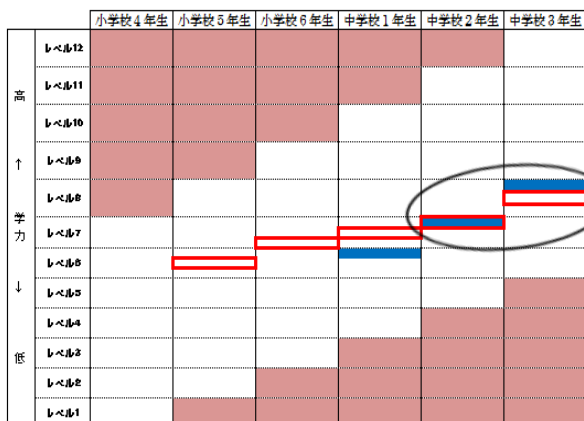
##### イ 学力向上のための集団における個に対する指導

毎時間、既習事項の小プリントから本時の授業内容に繋げている。既習事項を復習させてから授業を進めることで、「学習の継続性」を生徒が認識し、基礎・基本の定着及び学習内容の理解の深まりを目指した。こうすることで、既習事項を整理し、新たな学習内容に対する課題の明確化が可能になった。また、生徒同士が考え方を共有するために、早く解き終わった生徒を「リトルティーチャー」とし、生徒の学び合いの場をつくった。この取組で、応用問題に対しても答えを考え、解き合うことができるようになり、分かる喜び、できる楽しさを味わわせるとともに、数学的な考察、思考ができるようになった。

## 中学校2年生→中学校3年生の取組

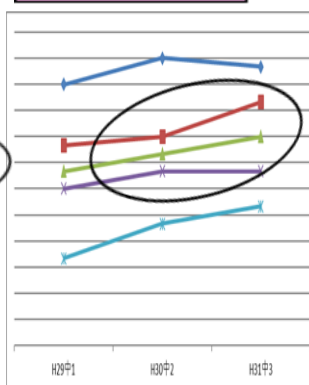
### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

#### 今までの学力の変化

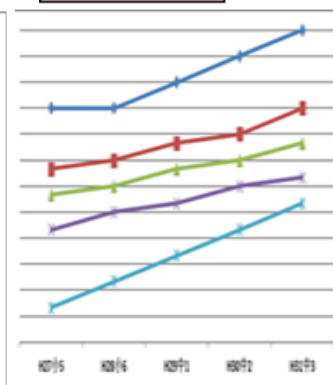


#### 学力の伸びの状況

##### 貴実施主体



##### 埼玉県



- 数学の学力レベルが中2時は県平均と同等であったが、中3時では県の平均を上回った。
- 上位層・中間層の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 定期テスト返却後の解き直しレポートづくり

テストの復習がおろそかにならないように、返却後すぐ解き直しをする時間を設定した。教師が解説する時間をなるべく短くし、悩んだ問題や間違えた問題について、何が原因で間違えたのか分析する時間や、解き直しをする時間をできるだけ多く確保した。合わせてレポートにまとめ確実に復習できるようにした。

次回のテストに向けて「いつから」「どのようなペースで」テスト勉強を進めていくのか、学習計画の改善にも取り組むことで、多くの生徒が自ら主体的、計画的に学習する姿勢をつくれるようになり、「自分で納得できるように勉強したい」という意欲がみられるようになった。

#### イ 生徒が関わり合いの中で学び、「数学的な考え」を育てる授業の工夫

普段の授業の中で、教師側の説明を簡潔にし、指示を明確に出すことと、発問の工夫により、生徒自身が考える時間や解く時間、生徒同士が考え方を共有する時間を確保することを意識して授業を組み立てている。また、3人グループによる話し合い活動を取り入れた授業を実施することで、自分の考えを整理し、図や言葉、式などで簡潔に表したものを、相手に分かるように筋道を立てて説明する力を育てている。さらに、相手の説明を自分の考えと比べながら聞き、自分の考えと相手の考えの類似点、相違点を探しながら、それぞれのよさに気づくことができるようにしている。このような活動を通して、自分の考えをもって話し合い、他者を通して考えを深めていく学習過程を積み重ねていく中で、「数学的な考え」が育ってきていると考える。

## 学校全体での取組

#### ア 「問題解決的な学習」の基礎となる「問題」の質の向上

数学の授業では、毎時間に行う既習事項の小プリントから授業内容に繋げることによって、意欲的に学習課題に取り組ませている。学習課題に対してスパイラルに取り組むことで基礎・基本の定着に繋がり、確かな学力を身に付けることを目指している。

#### イ 学習規律の統一を図り、誰もが落ち着いて学習できる授業体制の確立

全教職員が授業前に教室に向かい、チャイムと同時に授業を始めるようにしている。また、全ての教科で誰もが主体的に授業に参加できるよう、小グループでの活動やペア学習、「スモールティーチャー」の活用など積極的に導入、活用している。また、小グループによる話し合い活動を充実させることで、生徒が安心して挙手、発言ができる雰囲気づくりにも取り組んでいる。現在、「温かい学習環境」が整備され、生徒同士が共に高め合える、学力向上に向けた基盤がつけられている。



# 深谷市立幡羅中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、全校生徒577人、学級数は18学級の中規模校である。学校の周りには、旧中山道のイチョウや松並木に沿って西には小学校や高等学校や公園があり、北には新興住宅地、南に国道17号と工場地区、東には住宅地や農業地区がある。そのような比較的落ち着いた環境のもと、本年度で開校73年目を迎える学校である。



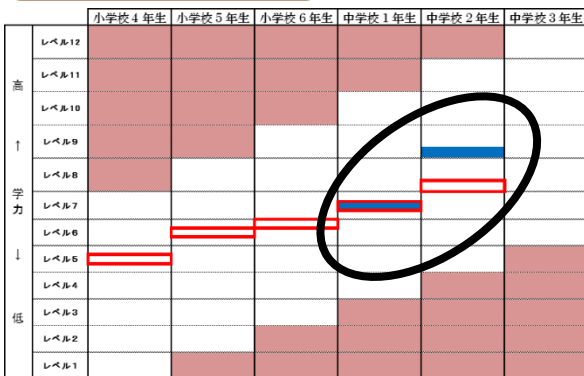
学校教育目標「高く志を抱き、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」のもと、全職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。平成29・30年度は深谷市教育委員会の委嘱を受け、「自ら学び、確かな学力の定着を図る指導法の研究」を学校研究課題として、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善、「非認知能力・学習方略の向上」に取り組んだ。また、学習だけでなく部活動も盛んであり、県大会・関東大会・全国大会に出場する部活動も多い。

## 2 平成30・31年度の結果

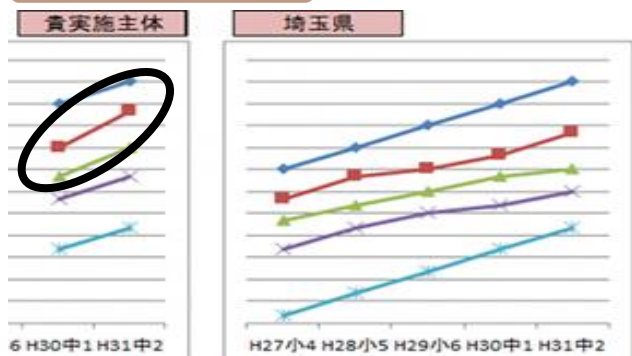
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 数学の学力レベルが中1時の県平均から、中2時では、+8ポイントの伸びがあった。
- 上位25%層の学力の伸びが顕著である。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 基礎基本の定着

毎時間、小単元プリントを使い小テストを行った。前時や本時の内容が理解できているかを確認し、個別の指導に生かした。小テストで合格点に届かない生徒は合格するまで取り組ませ、理解が不十分な生徒には放課後に補習を行い、「できるまで、わかるまで」指導を行っている。



##### イ TT (ティームティーチング) 授業の機能化

本校では毎年1年生においてTTの形態で授業を行っている。授業ごとに、補助が必要な生徒や授業展開についての打合せや協議を行い、T1、T2の役割分担を明確にして取り組んでいる。また、単元により、T1、T2教員が交代して授業を行うなど、それぞれの教員の持ち味を生かすとともに、生徒が新鮮な気持ちで学ぶことができるように工夫している。

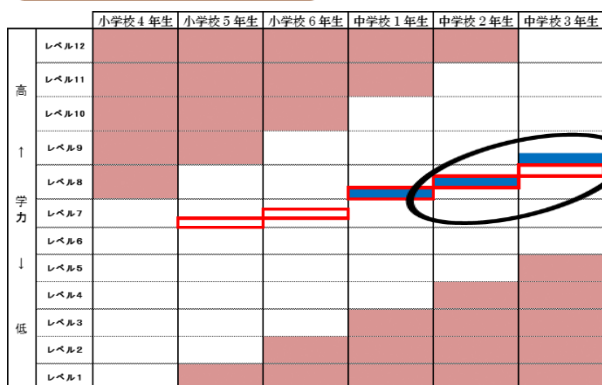
##### ウ 学習形態「個人」と「グループ」の取り入れの工夫

自力解決の時間や自分の考えや解決法をグループ内で説明する時間の確保を行っている。自分の考えや解決法を説明するだけでなく、他者の考えや解決法を聞き理解し、自分で説明してみる活動を通して、より理解を深めることができている。

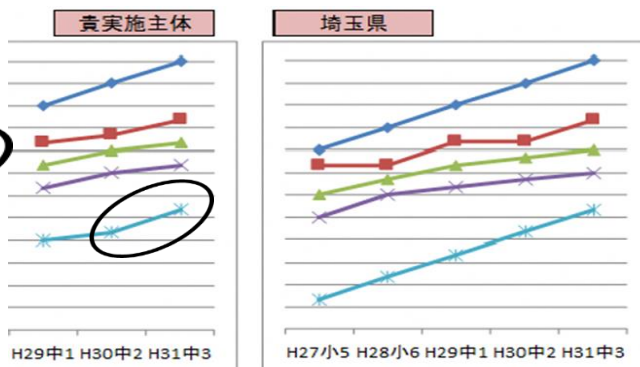
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 国語の学力レベルが、中2時は県平均であったが、中3時は県平均を上回った。
- 下位層の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 自分の考えや感想を書き記す時間の確保

文学的文章や説明的文章の学習時に、自分の考えや感想を書く作業を取り入れた。クラスの中で上手な生徒数名の文章を見本として印刷して配り、全員でその文章を読んで参考にした。



#### イ 授業時の漢字小テストに向けた語句ノート課題の提出

授業の最初に漢字小テストを行っている。それに向けて語句ノートに新出語句を書かせ覚えさせている。語句ノートは毎月1回提出させ、評価することを徹底してきた。今ではほとんどの生徒が提出でき、新出語句を覚えることに対する抵抗感がなくなってきた。

## 学校全体での取組

#### ア 深谷市授業スタンダードの実践

単元のゴールを設定し、それに向けた逆向き設計型の指導計画を立てている。それを基に毎授業の授業デザインを考え、単元に対する見通しを持って指導にあたっている。また、授業においては、最初に「目標（ねらい）」を示し、授業への見通しを持たせた。最後には生徒と教師による「まとめ」を行い、そこから生徒自身による「振り返り」を行わせている。

#### イ 深谷の子「6つの誓い」の実践

非認知能力や学習方略の高まりにより、学力が向上するということがわかっている。そこで、深谷の子「6つの誓い」の「あいさつをすすんでおこなう」「くつのかかとそろえ」に特に力を入れ、「全校あいさつ運動」や「くつのかかとそろえプロジェクト」を全校で取り組んでいる。本校の県学調の非認知能力や学習方略に関する設問の結果からは、県平均を大幅に上回っている値が見られ、その能力の高まりが学力向上につながっていると考えられる。



#### ウ ステップアップレッスンやコバトン問題集・復習シートの活用

学力低位層の生徒を主な対象として、週2回、放課後にステップアップレッスンを計画して学習補充を行っている。コバトン問題集や復習シートは全生徒が自主的に活用できるよう、校内の学習コーナーから各自が持ち帰れるようになっている。また、類似問題を定期テストに活用するなどして、今求められている資質・能力の育成に努めている。



# 越谷市立南中学校の取組

## 1 本校の概要

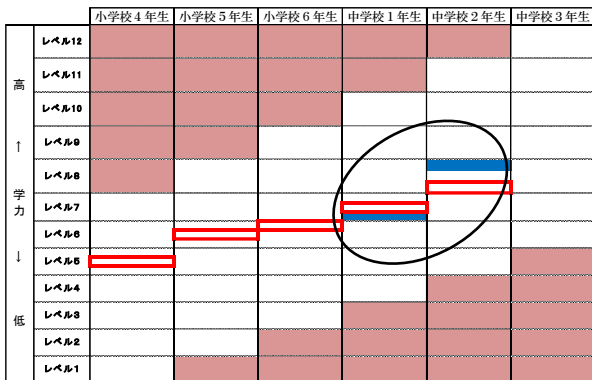
本校は越谷市の南部に位置し、全校生徒 573 人、学級数は 21 学級の中規模校である。学校教育目標「豊かな人間性を持ち、自立して生きる生徒の育成」に職員全員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。小中一貫教育にも力を入れ、「自ら課題を求め、目標に向かって進んで努力する児童生徒」の育成に努めている。

## 2 平成30・31年度の結果

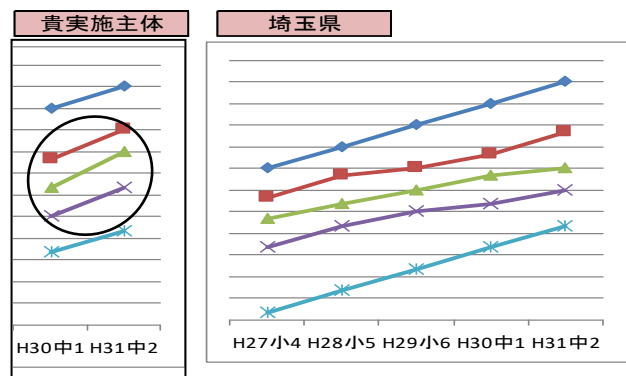
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 学力の伸びが県平均を上回り、県平均を下回っていた学力レベルが県平均を上回った。
- 上位層・中位層・下位層の学力の伸びが大きい。特に中位層の伸びが大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 個に応じたきめ細かい指導

新しい単元に入る前にレディネステストを実施し、生徒の希望を確認した上で習熟度別少人数指導を実施した。該当単元を苦手と感じている生徒のクラスをできるだけ少ない人数になるように配慮した。また、定期テストの前や本校数学科の取組である全学年対象の「計算力コンテスト」において、合格点に満たない生徒を昼休みや放課後に集めて補習を行い、基礎・基本の定着を徹底させた。補習には複数の教員で対応し、個別指導を行い、分かるまで、できるまで指導した。

##### イ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業

自分の考えを発表する機会を多く設け、生徒が全体の前で自分の考えた解き方を発表する活動を行った。工夫した考え方やいくつか考え方が出てきた場合にも積極的に取り上げ、様々な考え方を共有し合うことで理解をより深めることができた。

##### ウ 自力解決の時間の確保と教え合いの授業

自分の考えをもつ時間をじっくり確保するとともに、生徒が互いに解き方を教え合う学習を取り入れた。特に、理解の遅い生徒に対して、問題を解き終えた生徒を中心にミニティーチャーとなり、答えをただ教えるのではなく、考えるヒントを出しながら自分の力で答えを導き出せるようにした。





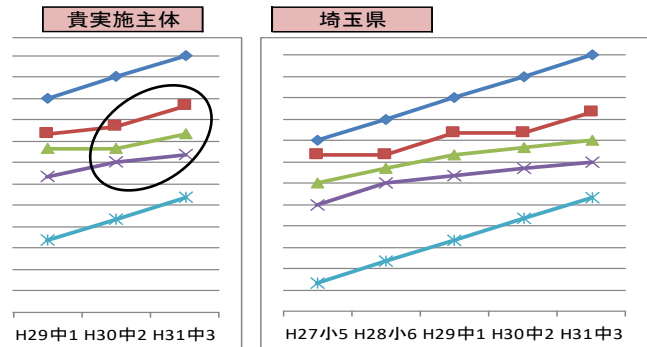
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
↑	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
↓	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
低	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

#### 学力の伸びの状況



- 学力の伸びが県平均を上回っている。
- 上位層・中位層・下位層の学力の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 「語彙力の充実」を意図した指導

- ① 毎時間辞書を活用する場面を設定している。教材に即した言葉・タイムリーな話題に関連した言葉・二十四節気という言葉などを中心に上げ、早引きゲームの要領で辞書を活用している。調べた言葉にはマーカーを引いたり付箋をつけたりして、学習の積み重ねが見えるようにしている。
- ② 中学1年生時から単元ごとのまとめとして、根拠を明らかにした意見文や物語のその後を創作した作文などの表現活動を高校入試課題作文の原稿用紙で行っている。
- ③ 各教室の黒板の月名は旧暦で書く習慣をつけている。

#### イ 少人数による「話し合い活動」の実践

- ① 4人班で単元ごとに話し合い活動を実施している。その際、「司会・ボードに書く人（発表用のホワイトボード）・発表者・質問に答える人」の四つの役割を輪番で回し、話し合いの場面で必ず自分の役割分担を持たせている。
- ② 話し合いの約束事として「話し手の意見を頷きながら聴く・発表している意見を否定しない」という姿勢を徹底させている。

#### ウ 「書く・話す」の徹底

- ① 授業中の発表の際、最後まで「自分の言葉で言い切る」という当たり前のことを徹底している。
- ② 定期テスト後、観点別（聞くこと・書くこと・読むこと・言語事項）にテストの振り返りを文章で書かせている。どこで間違えてしまったのか、それを回避するにはどうしたらよかったのか、これからどのような学習の取組をしていけば良いのか等を自分の言葉で書かせている。

## 学校全体での取組

#### ア 生活規律・学習規律の徹底

質問紙調査「規律ある態度」より、『学習のきまりを守る』『生活のきまりを守る』についての質問において、2年生と3年生は4項目全ての質問において「できる」と答えた生徒の割合が県平均を上回っている。徳育に力を入れ、落ち着いて生活することや落ち着いて授業をすることを全職員が共通理解し取り組んでいる結果であると考えられる。

#### イ 学習環境の定着

全教科において、授業の「ねらい」を明確化し「振り返り」を実施している。家庭学習においては、学習のポイントを教科担当が学年黒板に記入し、担任が毎日家庭学習の状況を点検している。さらに長期休業日やテスト前など教科別で補習を行い、継続してアドバイスをしている。

## 第5章

# 学習指導のポイント

実際に出題した調査問題をもとに、児童生徒の解答状況や各種分析、学習指導のポイントをまとめました。

各学校において授業改善の参考にお役立てください。



○ 調査問題


5行 3行

- 3 二段落目には、調べる方法を書くこと。
- 2 一段落目には、【ほかの国で想像されている、月のもようの形】から、あなたが調べたい月のもようの形を一つ書くこと。
- 1 二段落で、三行以上、五行以内で書くこと。

〈注意〉

【ほかの国で想像されている、月のもようの形】



バケツを  
持っている女の子



カニ



カエル  
(白い部分を見る)



ワニ

**調べてみよう!!**  
このほかにも、月のもようを、日本とちがういろいろなものや形に想像した国がたくさんあります。



かみの毛の  
長い女の  
人

(3) 次の【ほかの国で想像されている、月のもようの形】は、ほかの国の人々が、月のもようを見て想像したことをまとめたものです。それぞれの形が、どの国で想像したものなのかを調べるとしたら、あなたはどの形について最初に調べたいですか。また、どのようにして調べますか。調べたい形を一つえらんで書き、調べる方法を、あとの〈注意〉をよく読んで書きましよう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 調べたい月のもようの見え方と、調べ方を二段落構成で書く。

【出題の趣旨】 条件に沿って自分の考えを決め、情報の集め方を書く。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答	2 段落が 不適切	3 行数の過不足 形式不備	4 調べる方法 が不適切	5 内容・形式 が不十分	6 無解答
反応率	18.4%	9.0%	0.5%	13.5%	30.0%	28.6%

- 段落構成ができていない解答が多く見られた。
- 「調べる方法」の部分に、自分が選んだ「理由」を書いた誤答が多かった。
- 条件を正しく理解する力、段落を意識して記述する力に課題がある。

## ○ 指導上のポイント

### 「書くこと」において、「推敲」する際の系統性を意識した指導（指導事項）

- 【低学年】・文章を読み返す習慣をつけること。  
・間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
- 【中学年】・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。
- 【高学年】・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

### 段落を意識して書く指導

- 段落には、改行によって示されるいくつかの文のまとまりである**形式段落**と、その形式段落のいくつかの意味のつながりの上でひとまとまりになった**意味段落**とがある。
- 内容のまとまりで段落をつくる。段落は始めの一字分を下げて書き始める。
- 右図のように、段落に分かれていない文章と段落に分けた文章を視覚的に比較して、気づいたことを話し合わせるとよい。
- 「書くこと」の授業では、内容の中心が明確か、内容のまとまりで段落が分かれているかなど、児童自身やペアで見合いながら、書いた文章について振り返りをさせるとよい。

く	調	女	わ	●	の	る	の	わ	●
さん	べる	の子	わたし	段落に分けた文章	の	方	子	わたし	段落に分かれていない文章
の	方	について	は、		つ	ほう	につ	は、	
つ	ほう	いて	パ		て	は、	いて	パ	
て	は、	調	ケ		本	月	調	ケ	
い	月	べ	ツ		で	の	べ	ツ	
る	の	た	を		調	こ	た	を	
本	こ	い	持		べ	と	い	持	
で	と	で	っ		ま	が	で	っ	
調	が	す	て		す	た	す	て	
べ	が	。	い		。	く	。	い	
ま	た		る		さん	さん	調	べ	
す	。						べ		

段落が分かっていたほうが読みやすいね。

文章がつながっていると、読みにくいよ。

### 条件に沿って書く指導

- 下記のような例題や県学調復習シート等を活用し、条件に合わせて文章を書かせる。さらに書いた後、条件のとおり書けているかを項目ごとにチェックさせるとよい。

## ○ 復習シート・コバトン問題集等の活用



【出典】  
平成25年度  
「3つの達成目標  
検証問題」  
読む・書く小3


- ② クラスの友だちに、すきな乗り物（電車・バス・船・飛行機・自転車・一輪車など）を文章に書いて、しようかします。次のことに注意して書きましょう。
- ※ 注意すること
- ◎ 題名や名前は書かないで、本文から書きはじめましょう。
  - ① 二つの段落で書きましょう。
  - ② 一つめの段落には、すきな乗り物を書きましょう。
  - ③ 二つめの段落には、すきなわけや、乗っているときの気持ちなどを書きましょう。
  - ④ 句点（。）や読点（、）に気をつけて、四行より多く書きましょう。

○ 調査問題

16

田中さんの学校では、地域で働いている人にインタビューをすることになりました。田中さんのグループは、パン職人の山口さんにインタビューすることになり、事前に質問する内容を話し合っています。次の【話し合いの様子】と【インタビュー用のメモ】を読んで、あとの問いに答えましょう。(インタビュー用のメモは紙面の都合上省略)

【話し合いの様子】

田中：今日は、前回の話し合いに続いて、質問したいことを話し合いました。前回は、「パン屋さんになろうと思った理由をたずねる」ということが決まりました。ほかにはありますか。

大川：私は、朝は何時から働いているのか聞いてみたいです。朝学校に行くとき、パン屋さんの前を通ると、もう職人さんたちがいっしょけんめい働いているのを見かけるからです。

北島：いいですね。私は、おいしいパンを作るためのコツがあったら教えてもらいたいです。

小林：せっかくパン屋さんに質問できる機会なので、パンにどのような種類があるのかも聞いてみませんか。

田中：ここまでで、朝は何時から働いているのか、上手にパンを作るために気を付けること、パンの種類、という意見が出ました。

～ 話し合いは続く ～

- (2) ①～④までで、朝は何時から働いているのか、上手にパンを作るために気を付けること、パンの種類、という意見が出ました。とありますが、田中さんのこの発言には、どのような効果がありますか。もっともふさわしいものを、次の1～4の中から一つ選びましょう。
- 1 それまでに出た意見をまとめることで、みんなが話し合った内容を理解しやすくしている。
  - 2 山口さん自身が質問する内容を新たに提案することで、ほかの人も発言しやすくしている。
  - 3 前回の話し合いであがった意見を確認し、話し合いの中心となる内容を確かめている。
  - 4 自分が良いと思った意見をあげること、話し合いを思い通りの方向にすすめている。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 司会者の発言の効果として、適切なものを選択する。

【問題の趣旨】 司会者の役割を理解する。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答	2	3	4	0 無解答
反応率	43.4%	7.5%	14.2%	4.9%	30.0%

○ ③については、話し合いの最初に「前回の話し合いに続いて…」という発言があることから、解答していると考えられる。話し合いの様子の内容理解が不十分であったのではないか。

○ 無解答が30%と選択式にしては高い。司会の役割について考える機会が少ないからではないか。

## ○ 指導上のポイント

### 話し合いのポイントを意識させて、共有化するための指導

- ★低学年：互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。
- ★中学年：目的や進め方を確認し、**司会などの役割**を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

### ★高学年 よい話し合いに必要なポイント

#### 【互いの立場を明確にする】

- 話題に対してどのような考えをもっているかを明らかにする。
- 異なる立場からの考えを聞く。 ○理由をたずねあう。

#### 【意図を明確にする】

- 話し合いを通して何を達成しようとするのかを明確にする。
- どのように話し合うのか、方法を明確にする。○話し合いの冒頭で意見を述べるなども重要。

#### 【計画的に話し合う】

- 話し合いの内容、順序、時間配分を事前に検討する。
- 意見を一つにまとめるのか、互いの考えを広げるためかなど、目的や方向性を検討する。

#### 【考えを広げたりまとめたりする】

- 互いの意見の共通点、相違点、利点、問題点等をまとめる。
- 「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれど」などの表現の活用。



主体的、対話的で  
深い学びの視点

### よい話し合いのイメージを共有化するための指導

- ①話し合いのモデル（上記のポイントを意識）を作成し、共有化する。  
※モデル作成は学年の教員全員で作ることで、教師間の「よい話し合い」のイメージの共有にもつなげることができる。
  - ②子供たちの**実際**の話し合いを記録（録音、録画、書き起こし等）して視覚化することにより、グループ等で話し合いの良かったところ、改善すべきところを検討させる。〔継続的な実施〕
- 視覚化した【話し合いの様子】についての検討



この話し合いではどのようなところがよかったですでしょうか？



大川さんは、理由をはっきりさせて意見を発表できています。

司会者の田中さんは今日の話し合いの内容をはっきりさせています。



## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

【出典】  
復習シート  
5年生・国語  
レベル8  
話すこと・聞くこと／書くこと（平成28、29作成）  
2 (1)

- 1 早く話し合いを終わらせるためにみんなの発言をたしかめたもの。
- 2 司会者が自分のやりたい遊びについて意見を述べたもの。
- 3 たくさん出された意見をみんなが忘れないようにくりかえしたものの。
- 4 出された意見を、内容によって整理し、考えやすくしたものの。

【話し合いの一部】は省略

2 次の【話し合いの一部】は、「クラスの中をもっとよくしよう」というテーマで、クラスで話し合っている様子です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

○ 調査問題

- 3 1  
注ぐ 売る
- 4 2  
しぼる 焼く

油を  
□。

(2) 用事のとちゅうなのに、友達の家で

10 次の(1)～(4)の文の□に入る  
もっともふさわしい言葉を、あとの  
1～4の中からそれぞれ一つ選びま  
しょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題概要】 文中の空欄にあてはまる適切なことわざ・慣用句の一部を選択する。

【出題の趣旨】 ことわざ・慣用句の意味を理解し、適切に使う。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答	2	3	4	0 無解答
反応率	57.1%	4.2%	34.7%	3.3%	0.7%

- 正答率は57.1%であり、4つの選択肢の中では選択された割合が最も高い。
- 誤答のうち、「油を注ぐ」と解答した割合が34.7%と最も高く、次いで「油を焼く」が4.2%、「油をしぼる」が3.3%となっている。
- 誤答の主な原因は、①そのことわざや慣用句自体を知らないこと、②ことわざや慣用句の意味を正しく理解していないこと、③「用事のとちゅうなのに」という文脈を読み取っていないことが考えられる。誤答で一番多かった「油を注ぐ」を選択した理由としては、「油」という語句が含まれることわざ・慣用句として理解していたものが「注ぐ」であり、文脈と慣用句の意味の整合性は図らなかつたと思われる。

## ○ 指導上のポイント

### ことわざや慣用句についての知識を増やすための指導

<学習活動例> ○ことわざ（慣用句）カルタを作ろう。



この活動を通して、ことわざ（慣用句）の知識を増やし、意味を正しく理解できるようにしましょう。児童の実態やねらいに応じて、遊び方を工夫できます。

取り札（表）

ことわざと  
イラスト  
（または画像）

児童が動作化した画像にすると、さらにことわざへの理解が深まります。

ねらい	ことわざに親しむ	ことわざの意味を理解する	ことわざの用法を理解する
取り札	表	表	裏
読み手	ことわざを読み上げる	ことわざの意味を読み上げる	ことわざの意味を読み上げる
札の獲得後	読み手がことわざの意味を読む	取り手がことわざの用例を読む	

用例  
ことわざの

意味  
ことわざと

取り札（裏）

読み札

### ことわざや慣用句の意味を理解し、適切に活用させるための指導

<学習活動例> ○ことわざ（慣用句）劇を考え、クイズとして友だちに紹介しよう。

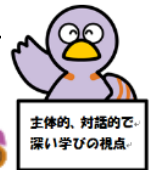


この活動を通して、ことわざ（慣用句）の意味を理解し、適切に活用できるようにしましょう。ことわざの用例を参考にしながら劇を考えてクイズとして出題することで、実感を伴ってことわざの意味を理解することができます。



どんな劇にしたら、「猿も木から落ちる」の意味がしっかり伝わるかな。

同じ意味をもつことわざに「河童の川流れ」っていうのがあったよ。他にもないか、本で調べて確認してみよう。



主眼的、対話的で、深い学びの視点。

<日常生活において> 実感を伴ってことわざ・慣用句を理解し、活用する場を増やす。

朝の会のスピーチで

日記を書く時に

教室に掲示

※ 故事成語や四字熟語など、ことわざや慣用句以外にも広げて活動することも考えられる。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

【出典】復習シート  
6年生・国語 レベル6・7  
4言語事項  
(漢字や文法など)

【活用の場面】  
・ことわざ・慣用句に関する  
知識を確認する場面

（ ）に同じ漢字を当てはめると、慣用句やことわざになります。当てはまる漢字一字を書きましよう。

・ （ ）をはさむ

・ （ ）はわざわいのもと

・ 開いた（ ）がふさがない

・ （ ）がすべる



○ 調査問題

9  
次の(1)～(3)の文では、( )の中の1～4の  
どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

(1) 「集中」の対義語は、  
1 困難      2 退屈たいくつ  
3 安心      4 分散

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の概要】 文中にあてはまる適切な対義語を選択する。  
【出題の趣旨】 対義語を理解する。

○ 誤答分析

解答類型	1	2	3	④ 正答	0 無解答	その他
反応率	11.4%	46.9%	6.0%	34.8%	0.9%	0.0%

- 正答率は34.8%である。
- 誤答のうち、「退屈」と解答した割合が46.9%と最も高く、次いで「困難」が11.4%、「安心」が6%となっている。
- 解答で最も多かった「退屈」という誤答の主な原因は、日常生活において、例えば、授業中などの場面において、「(物事に)集中している状態」の反対の意味で「退屈している状態」と感覚でとらえている生徒が多いことにある。日常的に用いている表現の中には、文脈としては反対の意味を表していても、言葉を抜き出して比較してみると、その言葉自体が対義語の関係にならない表現もある。言語に対する正誤・適否・美醜などについての感覚も大切にしつつ、言葉がもつ本来の意味を正しく理解し、判断できるようにさせたい。

## ○ 指導上のポイント

### 語彙学習としての体系的な対義語の指導

○対義語は、いくつかの種類に分類できることを押さえることで、体系的に指導することができる。  
 (例えば、「互いに補う関係」(「あたり」と「はずれ」など)、「状態の変化に関する関係」(「結ぶ」と「ほどく」など))

違う視点(立場)から名付けられた対義語には、どのようなものがあるでしょうか。

売ると買う です。

貸すと借りる です。

上がる と 下がる  
 入る と 出る

この対義語はどんな関係になっているでしょうか。

逆の方向に移動する関係かな。

### 間違いやすい対義語で意味を正しく理解することを実感させる指導

○「類似問題」(下記)のような間違いやすい対義語を取り扱うことで、日常生活に即して言葉の意味を正しく理解することの重要性を実感させるようにする。

「熱中」の対義語は、次のうちどれでしょうか。普段の生活を思い浮かべて考えてみましょう。

①平凡 ②退屈  
 ③夢中 ④寒中

「野球に熱中した毎日」って言うから、その反対と考えると「平凡な毎日」。対義語は「平凡」かな。

参考 **語彙の体系的な指導のために**

語彙のなかの一つに「対義語」があるということをふまえることで、「対義語」だけを取りたてて指導したり、他のものと組み合わせて指導したりすることもできる。

語彙

類義語 対義語

和語・漢語・外来語 同音異義語

上位語・下位語 複合語 多義語

接頭語・接尾語 など

## ○ 類似問題

である。

3 結果 4 敗北

(1 理由 2 失敗)

(1) 「原因」の対義語は

1 次の文では、( ) の中の1〜4のどれが最も適切ですか。一つ選びなさい。

○ 調査問題

東京五輪2020  
「中高生ボランティア」としてできること

中高生のボランティア参加が可能に？

○2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会が、「中高生<sup>おたく</sup>枠

のボランティアを設ける方針を決定

○18歳以上を対象とした一般ボランティアは募集中<sup>ほしゅう</sup>

(参考) 一般ボランティアの参加条件

- ・研修参加・参加日数など
- ・語学の能力は必要なし
- ・交通費相当のお金が支給される

中高生ボランティアの活動内容

検討されている活動内容の例 (一部)

- 競技会場の内外での観客案内
- 試合の簡単なサポート
  - ・サッカーやテニスの試合のボール拾い
  - ・バスケットボールの試合のモップ掛け
- レクリエーション活動
  - ・入場待ちの観客に向けた楽器演奏

※一般ボランティアと比べ、活動内容は限られる予定

ボランティアに参加することで期待できること

- オリンピックの運営に携<sup>たず</sup>わることができる
- 外国の人や、ほかのボランティアの人と交流できる
- もしかしたら試合を生でみられるかも・・・？

これから「東京オリンピックでの中高生ボランティア」について調べたことを発表します。

Aを見てください。東京オリンピックでは、18歳以上のボランティアとは別に、中高生のボランティアを募集することが計画されています。

それでは、具体的にどのようなボランティア活動ができるのでしょうか。これについては、Bを見てください。私たち中高生ができる活動として、たとえば、観客の案内や試合の手伝い、楽器演奏が予定されています。

私は、こうした活動内容を知ったからこそ、ボランティアに参加してみたいと思いました。18歳以上のボランティアと比べると種類は限られてしましますが、それでも様々な活動ができて、面白そうだからです。

ちなみに、学校でアンケートを取った結果、東京オリンピックに中高生ボランティアとして「参加したい」「できれば参加したい」人は少ないようです。その理由を見てみると、「自分たちに何ができるかわからないから」とあります。しかし、ボランティアの具体的な活動を知れば、自分にもできることがある、と私と同じように興味を持つ人が増えるのではないかと考えられます。

ここまでで、何か質問はありますか。

僕は部活動でテニスをやっている  
ので、テニスの手伝いをしてみたい  
のですが、ボール拾い以外にも手伝  
えることはあるのでしょうか。

募集が始まるのが楽しみです。ね。  
ボランティア活動の内容について、  
希望を出すことはできるでしょ  
うか。

岡田さん

山口さん

(3) 岡田さんと山口さんに続いて、東京オリンピックの中高生ボランティアについて、あなたが田中さんに質問するとしたら、どのような質問をしたいですか。【田中さんのポスター】や【発表場面の一部】の内容に触れながら、あとの条件1〜条件3にしたがつて書きなさい。  
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり、行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 二段落構成で、六行以上、八行以内で書くこと。
- 条件2 一段落目には、中高生ボランティアについて、岡田さんと山口さんに続けて質問したいことを、実際に話すように書くこと。
- 条件3 二段落目には、その質問をした理由を、【田中さんのポスター】や【発表場面の一部】の内容に触れて書くこと。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 質問したい内容を書き、その質問をしたい理由を、内容に触れて二段落構成で書く

【出題の趣旨】 場面に即した適切な質問をする

○ 誤答分析

解答類型	① 正答	2 段落のみ	3 形式	4 敬体	5 内容	9 不十分	0 無解答
反応率	39.0%	5.1%	2.0%	0.3%	9.9%	20.7%	22.9%

○類型⑨の半数は理由が示せなかった。また、類型②の段落分けをしていない生徒も、質問だけで理由を示せていない。

○誤答の中では、無解答の生徒が一番多かった。自分の考えを書き表す学習活動をする必要がある。

○条件作文などの学習を計画し、書く学習の機会を意図的に増やす必要がある。

## ○ 指導上のポイント

### 話を聞き、話題に沿って適切に質問する力をつける活動

#### 〈学習活動例〉

- 1年スピーチをする：部活動を紹介しよう



スピーチを聞いて、もっとくわしく知りたいと思ったことを質問しましょう。



部活動に入部して、最初の大会は、5月15日にあります。3年生は最後の大会です。その日のために、部員は一生懸命練習をしています。・・・

今度の大会は、1年生も出場するのですか？



どのようなところに力を入れて、練習をしたのですか？



※ 指導のポイント 話す側は、相手意識をもち、聞く側は、目的をもって聞くようにします。

### 根拠を明確にして、話したり、書いたりする力をつける活動

- 全教科を通して、自分の考えを話したり、書いたりするときは、理由や根拠を明確にします。

自分の考え「わたしは、～と思います。」

理由・根拠「なぜなら、～だからです。」

#### 〈学習活動例〉

道徳科で



この時の、主人公の気持ちは？

彼は、正直に伝えようとしたと思います。  
なぜなら・・・



学級活動で



体育祭の振り返りを書いてみましょう。

今度の体育祭では、クラスの絆が深まりました。  
理由は・・・

国語科で学習したことを、国語の時間だけでなく、全ての教科等で指導するカリキュラム・マネジメントの視点が大切です。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

【出典】復習シート  
令和元年度  
第2学年  
「書くこと」  
レベル9～11

条件1 二段落構成で、六行以上九行以内で書くこと。  
条件2 一段落目には、よりよいと思う意見を、案①と案②から選び一つ書くこと。  
条件3 二段落目には、そう考える理由を書くこと。

案① クラスの中でおすすめの本を紹介する  
案② 読んだ本の数を競うコンテストをする

2 あなたのクラスで学校図書館の利活用を活性化するために、次の二つの案が出されました。二つの案のうち、一つにしぼって取組を行うことになりました。  
あなたはどちらの意見がよりよいと思いますか。あなたの対場を明らかにして、その理由をあとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり、行間に加えたりしてもかまいません。

○ 調査問題

12

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

七歳の王戎<sup>おうじゆう</sup>が他の子どもたちと遊んでいたところ、多くの実をつけた李<sup>すもも</sup>の木が道ばたにあるのを見つけた。

諸児競ひ走りて之<sup>これ</sup>を取るに、唯戎<sup>ただ</sup>のみ動かさず。①人問<sup>ひとと</sup>之<sup>これ</sup>。答へて曰く、「樹、道辺に在りて子多<sup>み</sup>し。此<sup>これ</sup>必ずや苦き李ならん」と。②之<sup>これ</sup>を取るに信<sup>まこと</sup>に然<sup>しか</sup>り。

(『世説新語』による。)

(2) ②之<sup>これ</sup>は何を指しますか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 王戎
- 2 他の子どもたち
- 3 李の木
- 4 李の実

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題内容】 漢文中の指示語の内容を選択する。

【作成の趣旨】 漢文中の指示語の内容を理解する。

○ 誤答分析

解答類型	1	2	3	④ 正答
反応率	9.6%	10.7	14.7%	64.3%

○ 正答率は64.3%であり、およそ三分の一の生徒が誤答を選んでいる。

○ 誤答のうち「3 李の木」が誤答全体の14.7%と最も多く、次いで「2 他の子どもたち」が10.7%、「1 王戎」が9.6%である。これらの誤答の主な原因は、文章の話の流れ（文脈）と内容の理解が十分でないことと考えられる。誤答の傾向として、直前にきていることばを指示する語の内容と読み違えている場合と、動作主として読み違えた場合とがあることが推察される。

この問題のように、歴史的な知識を手掛かりに内容を正しく読みとめることは、教科横断的な資質・能力として今日的に重視されており、確実に定着させたい。

○ 指導上のポイント

多様な読み方を通して、漢文への理解を深めさせる指導

- ① 多様な読み方で、漢文に親しむ。  
追い読み、一斉読み、一文読み、分担読み、唇読等のねらいを定め、目的意識をもたせて、音読させる。
- ② 漢文の中の動作や指示する語句について発問し、漢文の内容理解につなげる話し合い活動をさせる。(右の「過ちて…」)
- ③ 「フラッシュカード」の要領で訓読文を書き下し文にして音読する。慣れてきたら、生徒同士で行う。間違えたところや苦手なところを指摘し合うなど、学び合い活動につなげる。

是れ：「過ちて改めざる」であるという意味である。

過ちて改めざる、是れを過ちと謂ふ。

春眠暁を覚えず。

⇔

春眠不覚暁は？

②の例

③の例

日常生活で、漢文の学習を生かす指導


【系統的指導】(小学校で学んだ「論語」や「故事成語」等の内容を例に)

生徒が「論語」や「故事成語」等の場面を表した日めくりカレンダーなどをつくる。

例 「友達に嫌がらせをしている絵」を日めくりカレンダーなどの表面に書く。

→「己の欲せざるところ、人に施すことなかれ」を裏面や、表面の下部等を書く。

今日のカレンダーの絵を漢文で表すと？



己の欲せざるところ、人に施すことなかれ

○ 復習シート・コバトン問題集の活用

**【出典】**  
復習シート  
(H28・29 作成)  
中学校3年生  
国語 7 (3)

① 線部①「向かふ」③「思はむや」を、全てひらがなで、現代仮名づかいになおしましょう。

② 線部②「初心の人」とは誰をさしますか。文中から書き抜きましよう。

③ 線部④「これ」とは何をさしますか。文中から書き抜きましよう

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて、的に向かふ。師の言はく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度、ただ、得失なく、この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて、一つをおろかにせんと思はんや。懈怠の心みづから知らずといへども、師、これを知る。この戒め、万事わたるべし。

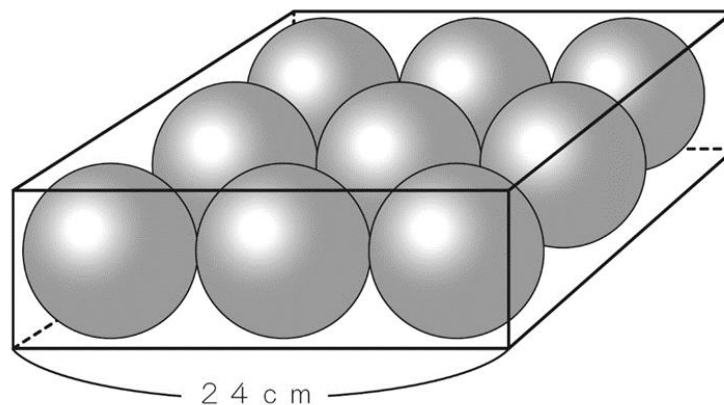
【7】古文の内容を読み取り、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題  
次の文章を読み、あとの問いに答えましよう。レベル8・10。

○ 調査問題

7 次の問題に答えましょう。

(4) 次の図のように、同じ大きさの球がぴったりと箱に入っています。

球の半径は何 cm ですか。答えを書きましょう。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 箱に球がぴったりと入っている図を見て、球の半径を求める

【出題の趣旨】 球の半径について理解している

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 4 cm と解答	2 8 cm と解答	3 その他	0 無解答	「3 その他」 に含まれる頻出の誤答例
反応率	57.3%	15.8%	21.5%	5.5%	12 cm (5.2%)

- 正答率は、57.3%である。
- 「8 cm」と解答している 15.8%の児童は、球の直径の3つ分が箱の横の長さ 24cm と同じことから、 $24 \div 3 = 8$ をして、1つ分の球の直径を求めている。直径は半径の2倍であるという直径と半径の関係について理解することができていれば、直径の8 cm を半分にすると半径が求められることに気付けたであろう。
- 「その他に含まれる頻出の誤答例」で、5.2%の児童が答えている 12 cmは、図から分かる箱の横の長さ 24cm を半分にして、 $24 \div 2 = 12$ と求めたと考えられる。箱の中に3つの球が入っていること、ぴったり入っているということから球の直径が分かるということなどを図や文から読み取れていないことがうかがえる。

## ○ 指導上のポイント

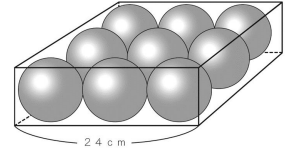
### 式を図と対応させて考え、球の直径と半径の関係を明確にし、その理解を深める指導

1つの球の半径は  $24 \div 3 = 8$ 、 $8 \div 2 = 4$  の式で求められます。

AさんとBさんは  $24 \div 3 = 8$  の説明を次のように考えました。

**Aさん** 同じ大きさの球が横にならんでいるので、 $24 \div 3 = 8$  で直径の長さを求めます。

**Bさん** 同じ大きさの球が横に3つならんでいるので、 $24 \div 3 = 8$  です。



Aさんの説明では、なぜ $\div 3$ なのか分かりません。



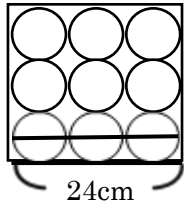
※よりよい表現になるように、  
話合いをしましょう。



Bさんの説明では、8の数字の意味が分かりません。



図や言葉を使って「 $24 \div 3 = 8$ 」の式を分かりやすく説明しましょう。



箱の横の長さは24 cmです。上から見た図を考えると、同じ大きさの球が横に3つならんでいます。箱の横の長さと同じです。だから、 $24 \div 3 = 8$  で球の直径の長さを求めます。



次に「 $8 \div 2 = 4$ 」の式の説明を考えましょう。

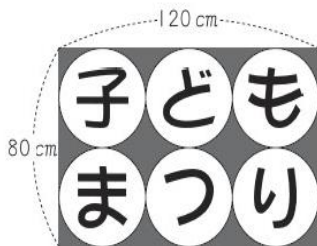
半径の長さは直径の半分なので、  
 $8 \div 2 = 4$  で、半径の長さを求めます。



球の中心や直径は、直接目で確かめることができないので、理解が抽象的になってしまいます。球の直径や半径の理解のために、実際に図る方法はないかと考え、写真のように、ボールを直方体などの立体ではさむ活動により調べることも大切です。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

3] 下の図のように、6つの円の中に「子どもまつり」と書かれた長方形の紙があります。



紙のたての長さは80 cm、横の長さは120 cmで、図のように、紙いっぱいには6つの同じ大きさの円がかかれています。

このときの、1つの円の半径の長さを求めなさい。

レベル6・7 (H21全国学力・学習状況調査B1) (3) 改題

【出典】復習シート

平成28・29年度作成 4年図形  
レベル6・7

【活用場面】

3年生「円、球」の発展問題として活用



○ 調査問題

① 次の問題に答えましょう。

$$(3) 9.62 \div 37$$

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 小数÷2けたの数を計算する

【出題の趣旨】 除数が整数である場合の小数の除法の計算ができる

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 0.26 と解答	2 26または2.6 と解答	3 その他	0 無解答	「3 その他」 に含まれる 頻出の誤答例
反応率	66.5%	9.6%	19.9%	4.0%	なし

- 正答率は66.5%であった。無解答率は4.0%で他の計算に比べて高く、児童が困難を感じていると捉えられる。
- 「26または2.6」と解答している9.6%の児童は、小数点の位置を間違えてしまった誤答が見受けられる。空位を意識できずに解答してしまっている。
- この問題は、乗法、減法、小数点の位置など数と計算に関わる様々な技能が必要となる。誤答の原因がどこにあるのを分析し、個に応じた指導の充実を図る必要がある。

## ○ 指導上のポイント

誤答を生かした授業展開で筆算に書かれた数を構成するの単位に着目させ、考えさせる指導

### ①誤答を提示する

$$\begin{array}{r} 26 \\ 37 \overline{) 9.62} \\ \underline{74} \\ 222 \\ \underline{222} \\ 0 \end{array}$$



小数点を忘れているよ。  
検算をすると答えが正しくならないよ。



主体的、対話的で深い学びの視点。

どこに小数点を打てばいいのかな。  
わり算の性質について確認しよう。



### ②小数の除法の計算の仕方を理解できるようにする

小数の除法の計算の仕方を指導する際には、形式的に筆算の計算の仕方を指導するのではなく、既習の整数の除法「(整数) ÷ (整数)」を基にして、数の仕組みや(小数) ÷ (整数)の計算の意味や仕方を考えられるようにすることが大切である。

$$\begin{array}{r} 9.62 \div 37 = 0.26 \\ \downarrow \times 100 \qquad \downarrow \times 100 \quad \uparrow \div 100 \\ 962 \div 37 = 26 \end{array}$$



単位の考えを使って、9.62を0.01が962個あるとみて、 $(962 \div 37) \div 100$ のように考えることができるね。

### ③正答を提示する

$$\begin{array}{r} 0.26 \\ 37 \overline{) 9.62} \\ \underline{74} \\ 222 \\ \underline{222} \\ 0 \end{array}$$



2.22は、どんな数ですか。

2と0.22を合わせた数です。  
9.62 - 7.4の答えです。  
0.01が222こ集まった数です。



### ④適用問題に取り組む

他の数字でもできるかな。  
同じように、計算方法を説明してみよう。



- 計算の結果の見積もりや確かめの習慣を身に付けさせましょう。
- 数の仕組みと計算の仕方を関連付けて指導を行いましょう。

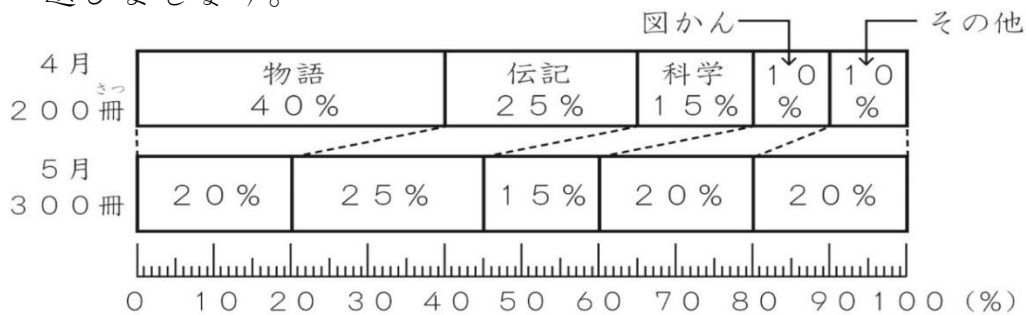
## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

(3)  $6.72 \div 24$  レベル6

【出典】 復習シート  
令和元年度作成 5年「数と計算」  
レベル6

○ 調査問題

- 9 次の問題に答えましょう。  
 (2) 次のグラフは、さちこさんの学校の図書室で、4月と5月に貸し出された本を、本の種類ごとに表したものです。このグラフについて、正しいものを次の㉠から㉥の中から1つ選びましょう。



- ㉠ 貸し出された「物語」の本の冊数は、4月と比べて5月は半分になっている。  
 ㉡ 貸し出された「伝記」の本の冊数は、4月と5月で変わらない。  
 ㉢ 貸し出された「科学」の本の冊数は、4月と比べて5月は増えている。  
 ㉣ 貸し出された「図かん」の本の冊数は、4月と比べて5月は2倍になっている。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】帯グラフを読み取り、説明として適切なものを選ぶ

【出題の趣旨】帯グラフを読み取ることができる

○ 誤答分析

解答類型	1 アを選択	2 イを選択	㉢ 正答 ウを選択	4 エを選択	0 無解答	「その他」に含まれる頻出の誤答例
反応率	37.6%	27.4%	13.9%	13.3%	7.6%	なし

- 学力レベルの中間層でも正答率が低かったことから、大半の児童にとって難しかった問題である。
- 選択肢のすべては、「貸し出された●●の本の冊数は、…」という書き出しになっており、実際の冊数を説明しているのだが、正答の㉢以外は、割合の数値の大きさをそのまま冊数とする説明になっている。基準量が異なることに留意して割合が示す冊数を比較、考察しなければならない。基準量が多い方が、同じ割合でも実際の冊数は多くなることを理解しておく必要がある。
- 誤答の性質は同じであるのに、㉡や㉣に比べて、㉠の誤答が多かったのは、帯グラフの先頭（一番左）がそろっており、視覚的に大きさ（帯グラフの幅）が半分になっていることに目がいつてしまったためではないかと考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 割合の意味を的確に掴ませ、グラフの割合だけで解決できることとできないことを明確にする指導

割合とは…基にする量（基準量）を1と見たとき、他方の量（比較量）がどれだけにあたるかを表した、数量の相対的な表し方

#### (1) 帯グラフや円グラフから特徴や良さを見つける活動

帯グラフや円グラフは今まで学習してきたグラフとどんなところが違うのかを話し合わせる。

「数値が%で表されている。全部で100%」←「実際の数量ではないみたい。」

「全体に対する部分の割合の大きさが比べやすい。」

帯グラフや円グラフは、全体をもとにしたときの各部分の割合を見たり、部分同士の割合を比べたりするのに便利。割合は、実際の数量ではないので注意する。



#### (2) 2つのグラフに表されていることを読み取る活動

基準量が違う2つのグラフから、同じ割合なのに実際の数量が違ったり、割合の大小と実際の数量の大小が逆になったりする理由を話し合わせる。（基準量が違うことは伏せておく。）

「全体の量が違うのではないか？」

「全体の量が少なかったら、少ない数量でも高い割合になるんじゃない？」

「同じ割合だと、全体の量が多いほうが実際の数量は大きくなるんだね！」

割合が同じでも、基準量が異なれば実際の数量は異なる。  
基準量が同じであれば、割合だけで実際の数量の大きさを比べることができる。



帯グラフや円グラフを読み取る時は、必ず全体の量に注意しなければいけないね！

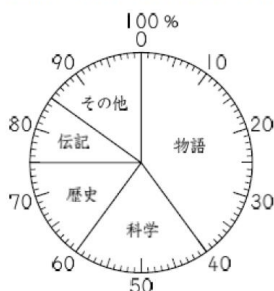


## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

2

あきらさんの学校で、3月に貸し出された本を調べました。下の円グラフは、貸し出された本の冊数の種類別の割合を表したものです。

3月に貸し出された本の冊数の種類別の割合



【出典】復習シート

H28・29年度 6年算数 数量関係  
レベル8・9 数量関係

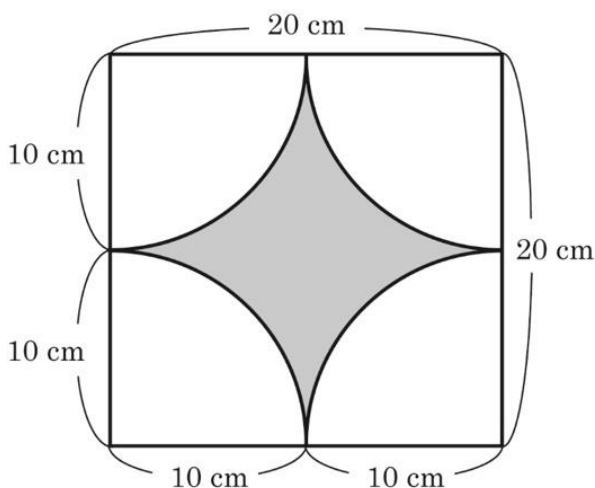
(1) 「科学」の本の冊数の割合は、全体の何%ですか。答えを書きましょう。

(2) 3月に貸し出された本の冊数は620冊で、そのうち、「物語」の本の冊数の割合は、全体の40%です。「物語」の本の冊数は何冊ですか。求める式と答えを書きましょう。

○ 調査問題

3 次の各問いに答えなさい。

(2) 次のような正方形と円の一部を組み合わせた図形のうち、色をぬった部分の面積を求めなさい。ただし、円周率は3.14とします。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 正方形と円の一部を組み合わせた図形で、ある部分の面積を求める

【出題の趣旨】 正方形と円の一部を組み合わせてできた図形の面積を求めることができるかを見る

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 86 cm <sup>2</sup> と解答	2 314cm <sup>2</sup> と解答	3 その他	0 無解答	「3 その他」に 含まれる頻出の誤答例
反応率	62.3%	2.0%	25.2%	10.5%	21.5cm <sup>2</sup> , 157cm <sup>2</sup> , 400cm <sup>2</sup>

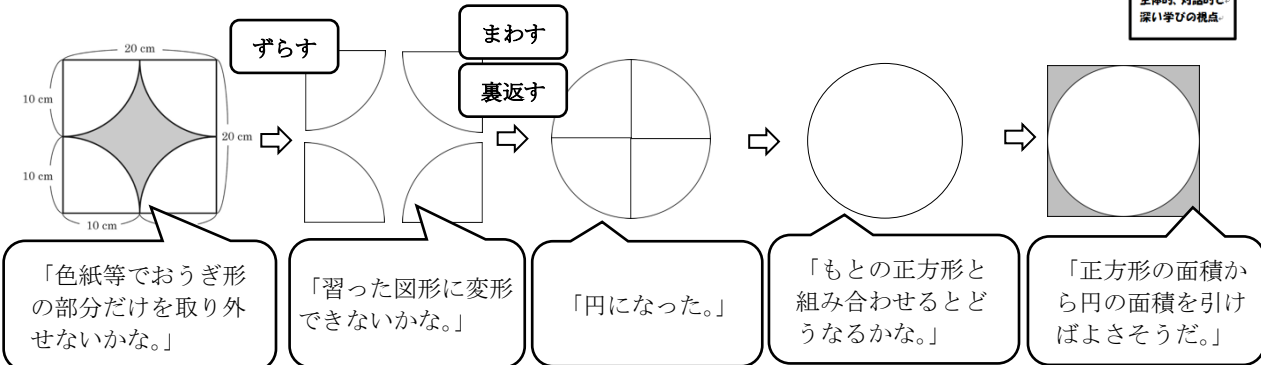
○ 正答率は62.3%で、誤答の合計は37.7%であった。その他の誤答が25.2%と多かった。また、学力レベルが低い層の児童では、半数近くが無解答であった。

○ その他の誤答例では、特別頻出した誤答例がなかったことや314 cm<sup>2</sup>という誤答から、無解答の児童と同じように、中心角90°のおうぎ形を4つ組み合わせると1つの円としてみる見方ができない児童が多かったと考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 図形を実際に「ずらす」「まわす」「裏返す」操作を行い、理解を促す指導

#### (1) おうぎ形を組み合わせると円になることをとらえる活動



#### (2) 図形と式を関連付ける活動

式の数値の意味を考えたり、図からどのような式が立つのか考えたりする中で、図と式を関連付けるために、式が図形のどこの面積を表しているか具体的に問う

図 1

図 2

式  $20 \times 20 - 10 \times 10 \times 3.14 = 86$

20×20 はどこの面積を表しているのかな。

10×10×3.14 はどこの面積を引いているのかな。

図 2 の白い円の面積の部分は図 1 のどこの面積と同じかな。

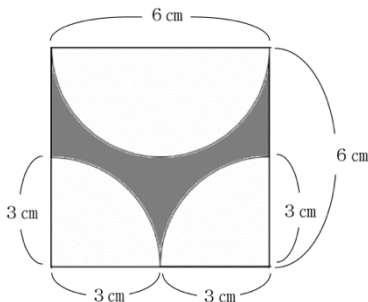
図 2 の白い円の面積は図 1 だと、四隅のおうぎ形の面積と同じだね。

20×20 は正方形の面積だね。10×10×3.14 は円の面積だから図 2 だと白い円の面積の部分だね。

※最後に図 2 の色のついた面積を図 1 に合わせて、面積が同じになることを確認する。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

3 次のような正方形と円の一部を組み合わせた図形のうち、色をぬった部分の面積を求めなさい。ただし、円周率は 3.14 とします。 **レベル 7・8**



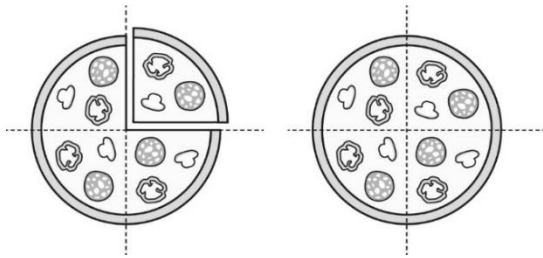
【出典】 復習シート  
1年数学 レベル 7・8  
2 量と測定

答え  
cm<sup>2</sup>

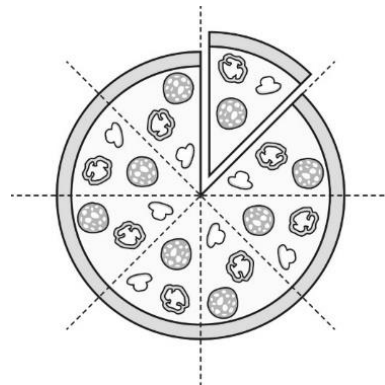
○ 調査問題

- 5 みさきさんは、友達と8人でピザを食べることにしました。直径24cmのMサイズのピザ2枚をそれぞれ4等分するのと、直径36cmのLサイズのピザ1枚を8等分するのでは、どちらが1人分の面積が大きくなるかを考えています。

Mサイズのピザ2枚



Lサイズのピザ1枚



Mサイズのピザ2枚の場合の1人分の面積の求め方を参考にして、Lサイズのピザ1枚の場合の1人分の面積の求め方の続きを完成させ、下のアからウの中から正しい結論を選びなさい。ただし、厚さは等しいものとします。

Mサイズのピザ2枚の場合の1人分の面積の求め方

Mサイズのピザ2枚をそれぞれ4等分した場合、1人分の面積を計算すると、 $12 \times 12 \times \pi \times \frac{90}{360} = 36\pi$  となり、1人分の面積は  $36\pi \text{ cm}^2$  となる。

Lサイズのピザ1枚の場合の1人分の面積の求め方

Lサイズのピザ1枚を8等分した場合、1人分の面積を計算すると、

- ア Mサイズのピザ2枚を分けるほうが、1人分の面積が大きくなる。
- イ Lサイズのピザ1枚を分けるほうが、1人分の面積が大きくなる。
- ウ どちらの場合でも、1人分の面積は変わらない。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題内容】MサイズとLサイズのピザの面積の大きさを比較する方法を説明する。  
【作成の趣旨】おうぎ形の面積を求めることができる。

## ○ 誤答分析

<正答の条件> イを選択し、次の(a), (b)の両方を記述しているもの。

(a) Lサイズのピザ1枚の場合の1人分の面積を求めるための式

(b) Lサイズのピザ1枚の場合の1人分の面積

解答類型	① 正答 上記	2 ア, ウ	3 その他	0 無解答	「3 その他」に含まれる 頻出の誤答例
反応率	30.2%	40.0%	23.7%	6.1%	「立式は正しいが計算ミス」 「 $\pi$ の抜け落ち」等

○正答率が30.2%である。ア, ウを選択しているものが40%で、求め方を書かずに、記号のみ選択しているものが多い。おうぎ形の面積を求め方の理解や技能に課題がある。

## ○ 指導上のポイント

### おうぎ形の面積を求める技能を習熟させる指導

(1) おうぎ形が円のn等分であるという考え方を用いる。

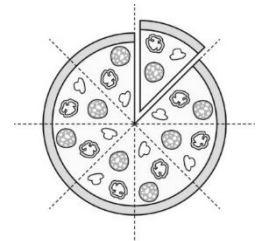


円全体の面積を求めて、4等分ならば $\times \frac{1}{4}$ 、8等分ならば $\times \frac{1}{8}$ して

おうぎ形の面積を求めることができる。

<例> Lサイズのピザの8等分の面積の求め方

$$18 \times 18 \times \pi = 324\pi \rightarrow 324\pi \times \frac{1}{8} = \frac{81}{2}\pi \quad \left( \pi \times 18^2 \times \frac{1}{8} = \frac{81}{2}\pi \right)$$



円の面積をn等分すると、中心角の大きさと弧の長さも、それぞれn等分されることに気付かせよう。

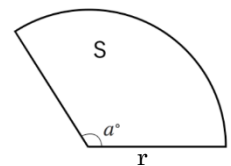


(2) おうぎ形の面積を求める公式を使いこなせるようにする。

半径r、中心角 $a^\circ$ のおうぎ形の面積をSとすると、 $S = \pi r^2 \times \frac{a}{360}$

言葉の式で表すと、 $\text{おうぎ形の面積} = \text{円の面積} \times \frac{\text{中心角}}{360}$

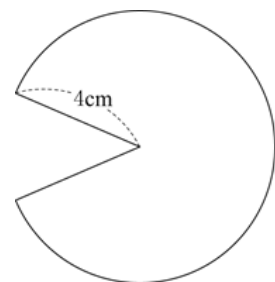
円周の長さと弧の長さに着目すると、 $\text{おうぎ形の面積} = \text{円の面積} \times \frac{\text{弧の長さ}}{\text{円周の長さ}}$



## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

右の図のように、半径4cm、弧の長さ $7\pi$ cmのおうぎ形があります。このおうぎ形の面積を求めなさい。

【出典】 復習シート 中2・数学  
レベル8・9 (図形)





○ 調査問題

2 次の各問いに答えなさい。

(3) ある中学校で行われた先月のボランティア活動への参加者は120人でした。今月は先月と比べて、男子は10%減り、女子は8%増えたので、参加者は117人になりました。今月の男子と女子のボランティア活動への参加者数を、次のアからエの中から1つ選びなさい。

ア 男子 50人 女子 70人

イ 男子 70人 女子 50人

ウ 男子 63人 女子 54人

エ 男子 54人 女子 63人

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 連立方程式を用いて、文章問題を解き、正しい人数を選ぶ。

【出題の趣旨】 具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくり、解くことができる。

○ 誤答分析

解答類型	1 ア	2 イ	③ (正答) ウ	4 エ	0 無解答
反応率	6.1%	15.3%	35.0%	39.0%	4.6%

○受験者の学力のレベル毎のグループで見ると、この問題において、エの誤答は学力レベル6～8の生徒に多く見られる。今月の参加者数の合計が117人という情報と、「女子が8%増加」という情報から、女子の人数が多いエを解答したものと考えられる。

○一方で、学力レベル9～11になると、イの誤答が多くなっている。これは、先月の男女を $x, y$ として連立方程式を利用して求めたが、解答する際に今月に直さずに解答したものと考えられる。

○これらのことより、与えられた情報から等しい関係を読み取り、立式することに課題があると考えられる。また、立式した際に、何を未知数に設定して立式したのかを理解するとともに、式の意味を理解し、求めた解を事象と照らし合わせて吟味することに課題があると考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 連立方程式の解や未知数について、場面に合わせて吟味できるようにする指導

T : この問題ですが、何を  $x$ ,  $y$  にしますか？

S : 分かっているのは先月の男女と、今月の男女だよね。求めたいのは今月だから、今月を  $x$ ,  $y$  に設定しよう。

S : ...あれ？今月を式で立ててみると、式がわからないよ...

T : そうですね。今月の男女の人数を、それぞれ  $x$  人、 $y$  人にとすると、  
どうやら式が立てにくそうですね。では、どうしましょうか。

S : 先月の男子と女子の参加者数をそれぞれ  $x$  人、 $y$  人とするから...

S : 今月と先月の関係がわかりづらいな...

S : 表にまとめてみるといいかも。

	男子	女子	合計
先月	$x$	$y$	120 人
今月	$x \times \frac{90}{100}$	$y \times \frac{108}{100}$	117 人

S : この式を立式すると、

$$\begin{cases} x + y = 120 \\ \frac{90}{100}x + \frac{108}{100}y = 117 \end{cases}$$

になるのか。これを解けばいいんだね。

S : 答えが出たよ。男子 70 人、女子 50 人。

S : ん？おかしくない？70 人と 50 人たしても、今月の参加者数 117 人にならないよ？

S : そうか。この  $x$ ,  $y$  は、先月の男女だったね。だから、今月の人数に戻さなくちゃ。

S :  $70 \times \frac{90}{100} = 63$ (人)、 $50 \times \frac{108}{100} = 54$ (人) だね。

S : 今度は大丈夫。男子 63 人、女子 54 人。自然数の答えになっているから人数の問題に合っているね。

T : そうですね。では、本時で学んだことは何でしょうか？

#### 【まとめ】

- ・求めるものを  $x$ ,  $y$  とするのが原則だが、立式しやすいように  $x$ ,  $y$  を設定することがある。
- ・連立方程式を解いたあと、解が何を意味しているかを考え、問題に合っているかを吟味する。必要な場合は、連立方程式の解に計算をなるべく計算する。



主体的、対話的で深い学びの視点

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

- (3) ある中学校の昨年度の生徒数は 300 人でした。今年度は昨年度と比べて、男子は 6% 減り、女子は 10% 増えたので、生徒数は 306 人になりました。今年度の男子と女子の生徒数を、次のアからエの中から 1 つ選びなさい。 **レベル 10**

- ア 男子 150 人      女子 150 人  
 イ 男子 140 人      女子 160 人  
 ウ 男子 152 人      女子 154 人  
 エ 男子 154 人      女子 152 人

【出典】 復習シート 中3・数学  
レベル 10 (数と式)

○ 調査問題

12 あなたは、外国人の友達から英語の手紙を受け取りました。その手紙の中で、好きな季節について問われました。そこで、あなたは自分の答えとその説明を次のように書こうと考えました。

. We can see snow\*.  
I go skiing\* with my family in February.

(注) \*snow: 雪      skiing: スキー

後の文につながるように、空欄に当てはまる英語の文を解答欄に1文で書きなさい。  
ただし、1文は2語以上とします。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】自分の考えに関する説明にもとづき、英語で主張を明確に書く。  
【出題の趣旨】主張を書くことができる。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 I like winter.	2 誤答	3 その他	0 無解答
反応率	54.8%	5.5%	18.9%	20.8%

- 正答率は、54.8%であった。内容面・言語面ともに正確に記述されているものを正答としている。また、動詞に love を使用しているものや主語が We となっているものも正答とした。Winter と1語のみが記述された解答や、winter のスペルミスなども準正答として扱っている。(正答と同様の扱い)
- 誤答では、言語面に誤りはないが、winter の代わりに February や Hokkaido、fall と書くなど内容面で不適切な解答が見られる。問題中の英文から類推し、解答していることが考えられる。
- その他の誤答では、winter 以外の単語にスペルミスがあるものに加え、I like season winter. と記述するなど、文法を正確に理解できていないことが考えられる。
- 無解答が20.8%と正答について高い数値となっている。原因としては、問題中の英語を意識しすぎてしまい問題を正確に読み取れていない、英語をどう書いて良いか分からない、英語を書くことに対する苦手意識の強さが考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 無解答の生徒や文法理解に課題のある生徒の実態に合わせた「書くこと」に関する指導

#### (1) 英語を「書くこと」への抵抗を減らす工夫

授業の中でトピックを与えて、書くことを習慣化させ書くことへの抵抗を減らしていく活動を帯活動のように継続して行う。その際、以下のポイントを大切にする。

①書く活動について目的意識を持たせるために、活動のゴールのイメージを持たせること。

(例) 授業で書いた英文は最終的にはスピーチの原稿になる。または、書き溜めた英文は生徒自身の自己紹介の成果物になるなど。

②適切なテーマを設定すること。

(例) 生徒全員が関わりのあること、興味関心が高い内容、他者のことを知りたいと思えるような題材、ある程度生徒が書ける内容のものにする。書く内容が広がらないテーマは設定しないよう注意する。

#### (2) 英語の語順を身に付けさせる工夫

授業中の「話すこと」や「聞くこと」などの言語活動を通して、英語の語順を身に付けさせる。また、学習したことを定着させるため、十分慣れ親しんだ表現を、自分の言葉として主体的に書かせる活動を授業の中で継続して行う。以下のような具体的な活動が考えられる。

①ALT との Small Talk (聞いたり、話したりすることで英語の語順に慣れる)

②dictation (聞いたことを文字にして、語順に慣れる)

③教師と生徒、生徒同士のやり取り (英語でのやり取りを繰り返すことで、語順に慣れる)

④自分の考えや思いなどを表現する英文を書く (新出文法の学習時に、既習事項も使いながら正しい語順を身に付ける)

※英文を書く活動の中で、ペア、やグループという形態を効果的に活用し、お互いに教え合いながら英文を書く、完成した英文を読み合う、内容について英語で質問し合う、考えや思いを共有するなどの活動に発展させることで、書いた英文の価値付けをしていく。



#### 小中連携の視点

小学校では様々な場面で4つの季節について、音・文字・意味のリンクができるように慣れ親しんできています。(例: We can!②P6)



主体的、対話的で深い学びの視点

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

2 次の(1)の指示にしたがって、英文を書きなさい。

(1) オーストラリアに住む友達のクリス(Chris)からメールが届きました。そのメールには、クリスが「日本の季節のこと」について興味があることが書かれています。そこで、以下の内容でクリスにメールを送ろうと考えました。

【内容】あなたの好きな季節と、その季節が好きな理由について

【条件】①3文の英語で書くこと。

②1文目は、I like ~ で書き始めること。

【出典】復習シート (H31)

2年生・英語 レベル10・11

「書くこと」について問う問題

○ 調査問題

- 6 次の日本語の意味を表すように、ア～オを並べ替えて英文を作りなさい。そして、それぞれの答えで2番目と4番目にくる語句を選びなさい。(文の始めにくる語も小文字になっています。)

(2) あなたの兄は毎日何を勉強しますか。

\_\_\_\_\_ every day?

2番目

4番目

ア your    イ does    ウ study    エ brother    オ what

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 一般動詞の疑問文の正しい語順を選ぶ

【出題の趣旨】 正しく文を組み立てることができる

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 イ-エと解答	2 誤答 ア-イと解答	3 その他	0 無解答
反応率	58.6%	9.0%	32.0%	0.4%

○正答率は58.6%であった。誤答としては、「ア-イ」と解答した生徒が9%と最も多く、What your brother does study (every day)? のような語順で並び替えたと考えられる。また「イ-ア」「ウ-ア」と回答した生徒もそれぞれ5%ずつであった。

「イ-ア」と答えた生徒は What does study your brother (every day)?

「ウ-ア」と答えた生徒は What study does your brother (every day)?

のような語順で並び替えたと考えられる。

○多くの生徒は、疑問詞を文頭に置くことは理解できているが、一般動詞の疑問文の語順を理解できていないことが原因と考えられる。特に、三人称単数現在で用いられる does が主語の前にくるとということが認識できていなかったことが考えられる。

○また、What fruit do you like?のような、「疑問詞+名詞」の形と誤って捉えた生徒も少なからずいると考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 様々な場面で疑問文を作る機会を与え、定着を目指す指導

(1) 帯活動等で継続的に既習の表現をインプットする。

例えば、small talk で意図的に対象の表現を使いながら教師が生徒とやり取りをする活動や、ペアでお互いに日本語を英語で表現できるかを確認し合う活動などが考えられる。

(2) 1分間フリートーク（ペア）から、会話の共有、Q & A活動を定期的に行う。

①教師がテーマを提示し、生徒は1分間会話を続ける。

※活動で使う表現は規定せず、できるだけ既習の知識をフル活動して会話するよう促す。

(例) テーマ : country

Which country do you want to go?

I want to go to Italy.

Why do you want to go to Italy?

Because there are many famous places to see.

What do you want to see there?

I want to see Colosseum.

主体的、対話的で深い学びの視点。

②活動後に代表のペアに発表させる。

③その発表内容について、教師が Which country does he/she want to go? など三単現の疑問文を用いながら、内容を確認するためのインタラクションを行う。

(3) 教科書の内容理解の確認として、教科書本文の Q & A 形式によるリテリングを行う

①単元のまとめとして本文に関する Questions & Answers を生徒により作成する。

②お互いに Question を出し合い、教科書を見ながら答える。

③数人の生徒がクラス全体に出題する。

※活動の途中に、What does he/she~? の Question の例を示すことを通して、つまづいている生徒や活動が滞っているペアへの支援をする。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

1 次の英文 (1) ~ (5) の ( ) に入れる単語として最も適切なものを、下のア~エのうちから1つ選びなさい。

(1) A : What ( ) you do last Sunday?

B : I studied English with my friend.

ア do イ did ウ does エ are

レベル8・9

【出典】 復習シート  
中学3年生・英語  
「読むこと」